

法隆寺
大正十五年より
大正十五年まで

定王府石獅

高一丈 基六尺に四尺

図書室 九十尺・三十四尺

閱覽室 八十四尺・二十八尺

代々木東山谷二〇

澁川

フワケ

ピツカ 下駄

ウツケル
アタケル

ウルオース 七〇二

デトロイト 五十五

ニユーヨーク 八十五九〇八

久イムス

一二〇八

葉書

講座

大系

金書

全集

巨智部

忠承

葉書
講座
大系
金書
全集
葉書
講座
大系
金書
全集
葉書
講座
大系
金書
全集

東京院-法隆寺

四月四日 9.30
 五日 9.03 9.25 9.52 7.26 9.57
 六日 午前 9.47 法隆寺院-法隆寺 9.52 法隆寺
 (9/07 名古屋院 七日 午前 9.02 法隆寺)
 七日 八時半 法隆寺 12.42 名古屋院 9.50 東本願寺
 1.32 7.39 (午後)

権利の形と
 彫刻の深
 淵

女代建築

1. 紙日本趣味トクニ
 2. 軒の深さのあつと
 3. 低くたげ付きあるあつと
 4. 細工の精工あるあつと
 5. 軒石等を用いるあつと
 6. 彫刻の深さのあつと
 7. 彫刻の深さのあつと
 8. 彫刻の深さのあつと
1. 柱の偶数
 2. 雲形斗と拱
 3. 玉虫のし文採系統
 4. 燈籠の短冊
 5. 天蓋の形式
 6. プランの向壁
 7. 柱の心柱
 8. 礎石の件
1. 未決ありし諸件
 2. テイル
 3. 彫刻
 4. 文様
 5. 彫刻

法隆寺

昭和元年十二月二十八日
 朝見式勅語

浮華を弁け、質實を
 尚ひ、模倣を戒め、創造を
 旨め

深淵の北山海関、南
 昌黎ニ八角十三重塔あり

天台宗 養源院、血天井

元和七年

二代將軍の御台所深若く妹の

墓地一ツあり、

浅井長政日吉提子

血天井ハ

桃山城鳥井元忠の役ト

戦死セル人ノ血痕

血天井

養源院傳説

三、自然發願

四、沐浴遺堂

五、

1. 日中連座の養源院
2. 飛鳥建世の現われたる日本古代建築の特色
3. 飛鳥建世の飛鳥及其伝説
4. 彫刻繪画、文様等の源流

塔の由来

心柱の目的

五重塔の現状

空洞の献機

地下收藏の辭釈

心柱切取説

白之對スル疑義

切取気代、和銅祝

之對スル疑義

須弥山ノ年代

再建非再建説トノ關係

塔巖の發見を極スル處

結論

英帝の称号

大アリエン、アイルランド及大アリエン

海外領土の王國教擁護者イन्द

皇 帝

久喜銀行	村井銀行	中野銀行	才右衛門銀行	左野銀行	中野銀行	中野銀行	あかぎ銀行	渡辺銀行
------	------	------	--------	------	------	------	-------	------

人口
 推古十八年
 男 1994018
 女 2774825 (2753-555円 課税)
 4758842
 聖武天平八年
 4584073 (行基調査)

- 芳賀矢一君
- 一、村史子然タル風采
 - 二、天真爛熳又、虚偽十人
 - 三、醉フテ泥ノ如シ、
 - 四、剛直、卓識
 - 五、逸話不可数 相田曉山

理想と常識
 文化生活といふ科學應用で便利に樂む生活と云ふものは、文明的、北文化生活といふ人間の力で不便利に苦む生活を予ること未開的。

宇治の惠左衛門、左大臣執事
 栗津太 源一子
 栗七兵衛 良子清

紙屑籠と宝石匣

御大表儀当日の落し物
落した敷が拾った物

道貨	一八八二五〇	五〇四	四三二
時計	二五		
財布	六六		一八
人の車	六一		
貯金通帳	四		八四
勲章	七		
小見	?		
生命	三		
		?	

アトロイト、セクタワー八十五階八七五尺
ラーキン、タワー、八百八階、一、二〇八尺

地震 死 二五〇〇 傷 四五〇〇
丸ツ 三五〇〇 焼 四〇〇〇

或本云、揚東水田二百七十三丁五段廿四
小云々 又本云三百六丁云々
有本云、管教造、字恭敏、三空、十三年、十月、
(神記) 春三月十五日始、浄土寺云々 注云
辛丑年、始、于地美卯年(二種)立、金堂、至
其中(神記) 僧住已而(二種)三月二十五日
大臣(官) 美亥(注) 撰以美酉年(二種)
十一月十六日、建、信心柱、其柱礎中、作、内穴、刻
浄土寺、其中、置、有、大鏡、一口、内、藏、
名珠玉、其中、有、金、堂、二、堂、而、亦、藏、
玉、其中、有、銀、堂、五、堂、中、有、鏡、堂、其、内、
有、青、玉、三、粒、其、内、洞、穿、列、八、粒、丙子之年
(二種) 四月八日上、雲、盤、成、寅、年、十二月四日
鎮子六仙像、乙酉年(二種) 三月廿五日、
佛眼山田寺、是也(山田寺、在、十、市、所、一、米、華、寺、
山田寺、在、三、市、所、三、米、華、寺、
元興寺)

五重塔一基、本尊、如、興、福、寺、塔、也、柱
繪等、不可、思、議、也、伴、塔、者、敏、達、天皇
而、于、十四、年、致、我、大臣、之、感、得、之、舍利、加
種々、宝、物、納、此、塔、興、福、寺、五、重、之、塔、者
寫、当、塔、云々、安、四、方、浄、土、相

唐相提寺塔

...当寺舍利配分奉納古塔也

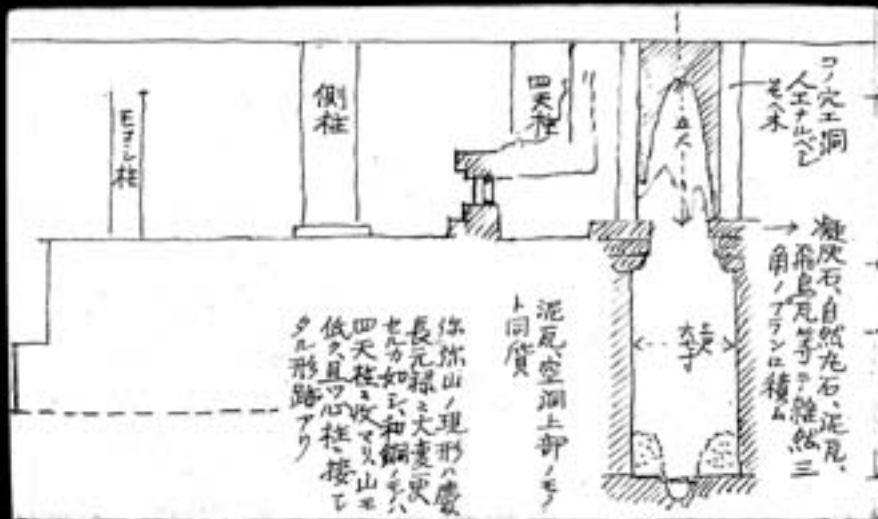
興福寺五重塔

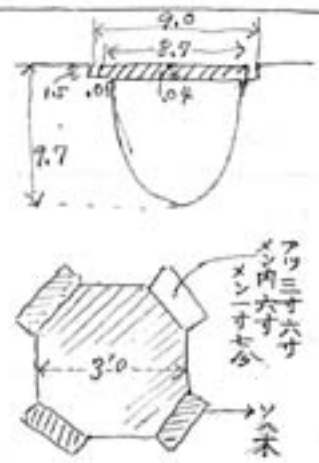
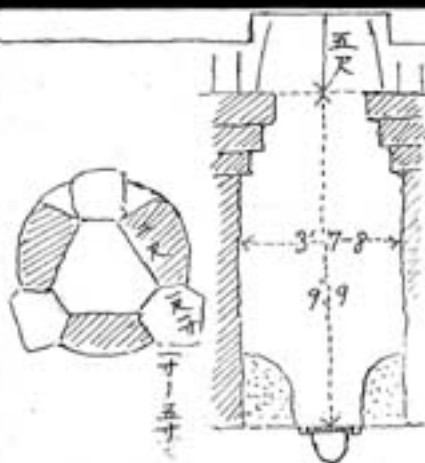
天平二年光明皇后ノ創立スル所ニシテ
高サ十五丈二尺毎級水漏ノ小塔四基ヲ安
シ各舍利一粒ヲ納ス下層ニハ四方四仙ヲ
置キ上層ニハ四仙ハ東方薬師淨土
南方釈迦淨土西方弥陀淨土北方弥勒
淨土ノ四變相ナリ

元興寺小塔(古図ニヨリ)

三重八南ニテ上層屋根四方鎮ヤリ
八方四基ノ高七寸許ノ口タロ也ノ小塔
ヲ安ス内ニ無垢淨光陀羅尼經ヲ納ム
聖德太子傳和記亦古今目錄抄下卷
次法隆寺古塔又觸里故三越寺.....

法隆寺門寺	南門也	東世寺	中門也
七級寺	金堂也	鳥居寺	経巻也
独生寺也	塔婆也	寶鏡寺	候守也
		聖因寺	講堂也

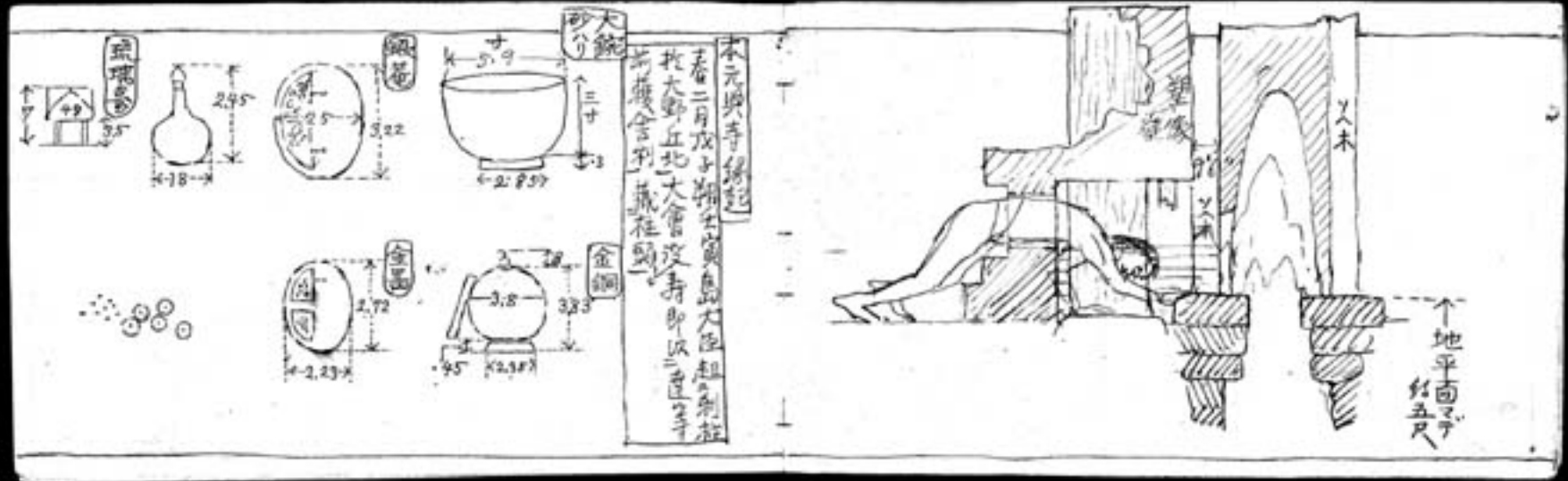




此申んちの事所はやとをとり申
いつこのさけへの内北のしやう不流や
丁の孫一とうまう仕内孫兵衛

此時天下をさのたさう治ふゆごも
ひてよとさ海と申ける一ちうまう寺
ゆえんりうとめし時の深んくくハ
長教并たつのとしとうの内の
くすれ申らおつき申ゆくのそ
りり申半申さんにはさのへの孫
郎と申す内とう内孫兵衛

聖徳太子降臨の事
四天王若狭近江未幡法輪堂和宗
師王事中心。一輪靈堂三粒佛月
若衆之之福由為。道徳之寿命。以聖
賢之加仙舍利六粒。納宝珠心柱者
夫利六道之相云。

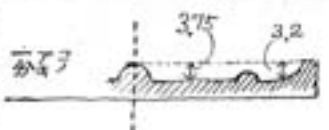


大鏡

ルリ玉 大小百一個 二分五厘乃至四分五厘
 水晶 五個 金ノ板一ツ
 ルリ小玉十一 真珠大 十個
 中小 教十 南京玉一ツ 八個
 小玉 二十 香木破片

鏡 (アト一鏡)

直五寸 三分二厘 厚二分五厘
 鍍直徑二寸二分二厘五毛
 目方八十三



銀器内

ルリ玉 大 中 廿一粒
 管玉 一個
 水昌 十二片 コハク大小四片
 真珠 大小 三十一 貝片真珠附着一
 ルリ玉 中小 七十三 香木 若干
 下字 若干 子香 若干

台カ

ルリ玉 廿五 水昌コハク十五
 直六珠小 三十三
 水昌 六 真珠小 六
 ルリ玉 中小 四 ルリ玉半片 一
 クタ玉 小 三 小玉 二

山岸技師

- ①飛鳥時代 礎石ノ研究
- ②五重塔ノ四天柱及心柱ノ礎石研究
須弥壇ノ穴ヨリ入ル方法
- ③内都ノ土ヲトリ四天柱ノ礎ヲ見ル
心柱ノ礎ノ研究ニミエ、各方面ノ
形ノ異ナルヲ知クソシテ完全ニセシ
ニ柱ノ根ノ腐レルヲ発見
- ④チホソク中ニ穴アルヲ知ル、フラン三角、
ソノ下ニ空洞アルヲ見ル

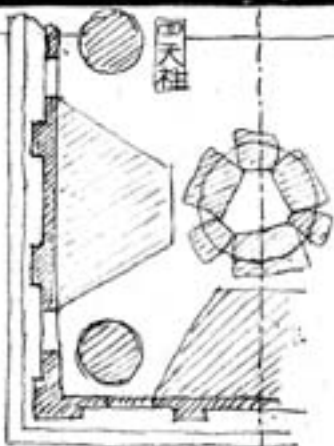
大正十五年

二月三十日也

二月七日銅板発見

二月四日池田谷技師

来リテ入洞ス、

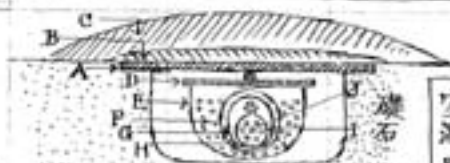


礎石

四天柱

チホソク

我が手あじ、人見ちと目ては、事書きお
 かす。ふやらんあとの、かちみともあれ。
 慶長五年二月五日地海門たち申出
 大旦那加藤主計との
 又寅の隔井上君を五門 西人組申出
 入谷孫十郎

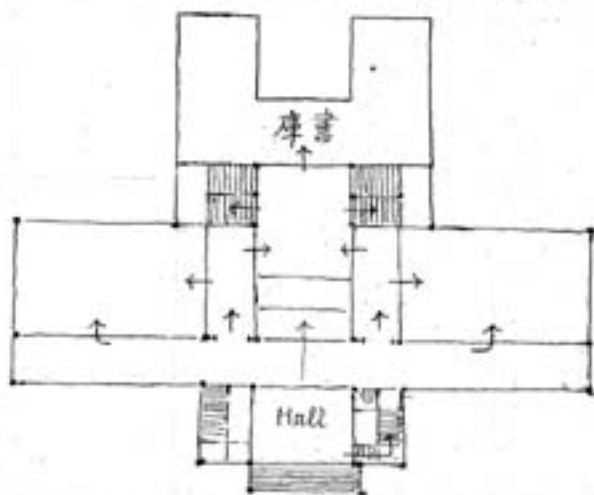


この正しからあは十かあるべきもこの空
 洞が甚だ遠しと見る、これは必ず
 二倍の厚さであると思ふ？

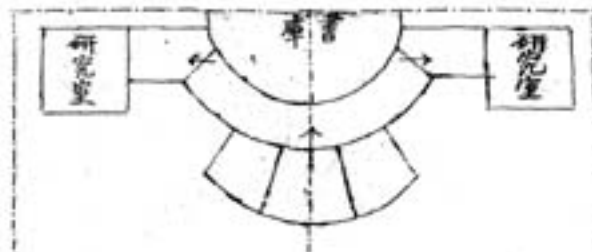
- A 銅板フタ(内形径九寸厚サ五か)
- B 白粉土(創建当初築リ固マタモノ)
- C コンクリート(大正十五年竣工コングモノ)
- D 円形白銅鍍(油鉄)ボドワ屋根
- E 銅製位液埋ラン
- F 宝珠ノ宝玉(數十個)
- G 純銅製先カゴ型容器(縦割き)
- H 純金製先カゴ型容器
- I 銅製金割フタ(ガラス板のピン)
- J 仏骨舍利六粒(コウボウの内側に付ていて)

空洞の問題？

次ぎの書館の即明

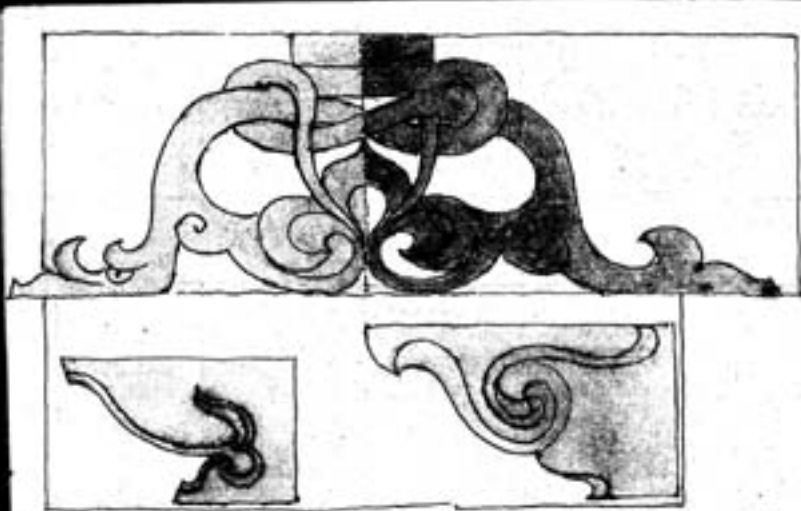


中央図書館五百坪八十分円



一々百七十二坪 十万円

- 外品室 五〇
- 図書室 三〇
- 會議室(食堂) 二〇
- 研究室 三〇
- 会附編室 一五
- 事務室 八
- 廣間 八
- 便所 八
- 廊下 二〇



中央圖書館(千二百坪)	百二十万円
研究所(八百二十五坪)	八十万円
門塙一式庭	二十万円
暖房換気電気	三十万円
水道、排水、裝飾	二百五十万円
合計	五百五十万円
敷地買収費	五十万円
設計・監督事務	二十五万円
合計	七十五万円
通計	三百二十五万円
門 四口	一万円
塙 五百間	五万円
庭園	十二万円
道路	二十万円
取壊費 十坪	十万円
修補費 七百坪	二十万円
新築費 五百坪	三十万円
●	六十万円

安東にて時計を一同戻す
奉天を日本領、歐名を歐米の日中
理のゆかり
奉天の龍展
スリ用紙(小四小施)ノ貼紙所々
奉天より大平野、高梁と豆と柿、
列車の不作法
兵隊の暴状
奉天から英語
北京の風景



23 东家院	7 北山院 — 下国屋 — 朝宗院
24 东野屋院	8 午时 — 吐名女石屋 — 祝院
25 下国 — 北山	9 朝宗院
26 北山 —	10
27 春天第一院	
28 北山院, 公使院, 弓楯所院内	
29 唐院, 九轮院, 柏王院, 大石院 (弓楯所院内)	
30 基王院, 礼王院, 定王院 (江户家分)	
1	
2	
3	
4	午时八时院
5	午时七时春天第一院
6	

皇帝 — 親王 — 郡王 — 貝勒 — 貝子
 公 — 侯 — 伯 — 子 — 紅帶子

畝六千平方尺
 百平方尺 — 一方
 六十方 — 一畝
 一尺 — 凡曲尺九寸五分
 一丈 — 凡
 一畝 — 十分
 一方 — 約三坪
 一畝 — 凡百个坪
 一畝 — 一平方町 (中流)
 間 — 住切
 間五百町 (中流)
 千八百尺 — 一里
 即三百六十步
 步 — 五尺

坪 = 180-1000 町
 坪六十四
 一間 = 四坪 = 六坪
 坪百 = 十町 = 八十坪

里 = 360步 = 1800尺
 步 = 5尺 = 1800尺
 畝 = 10分 = 100厘
 十畝 = 60方 = 6000平方尺
 方 = 100平方尺
 厘方 = 我々 95尺
 故方 = 我々 3坪 畝 = 我々 八十坪

8	五節府		13000 ²⁵							
1	睿王府	外交部街	████████ (15206)	約 1800 ^坪	便利 (電車9900)	下(復弱)	大破	困難	全部撤却	下
2	九節府	南小街 三条胡同南	(18500)	3000 ^坪	便利 (電車91500)	上(堂々)	小破	比較的容易	1000 ^坪 保存(手入) 1000 ^坪 改修 1000 ^坪 撤却	上
3	怡王府	新開路	49.07 (8833)	1800 ^坪	最便利 (電車、バス) (中不便) (電車33300) (バス=800)	下(醜態)	中破	困難	殆ど全部撤却	下
4	大公主府	大仙寺街西大街 路西	████████ (9015.9)	1500 ^坪	電車=9300 ^坪	中(温良)	小-中破	容易=95%	500 ^坪 (手入)修 1000 ^坪 撤却	中
5	恭王府		(5000)	3500	電車=9300 ^坪	中(宏爽)	小破			中
6	礼王府		(12740)	2200	電車・接道	上(社大)	小破			上
7	定王府		(7462)	1500	?	下(?)	中破			下
8	名録	所在	地号 12740	建坪面積	便否	電車・接道	破損程度	撤却容易	備考	判断

北京

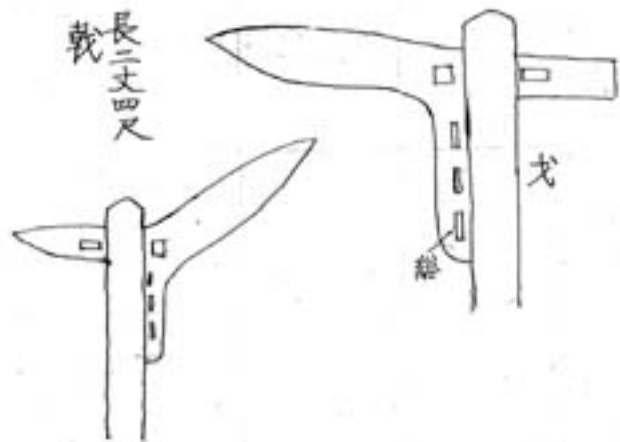
湿度 平均
雨量 一年弓
風速 最大

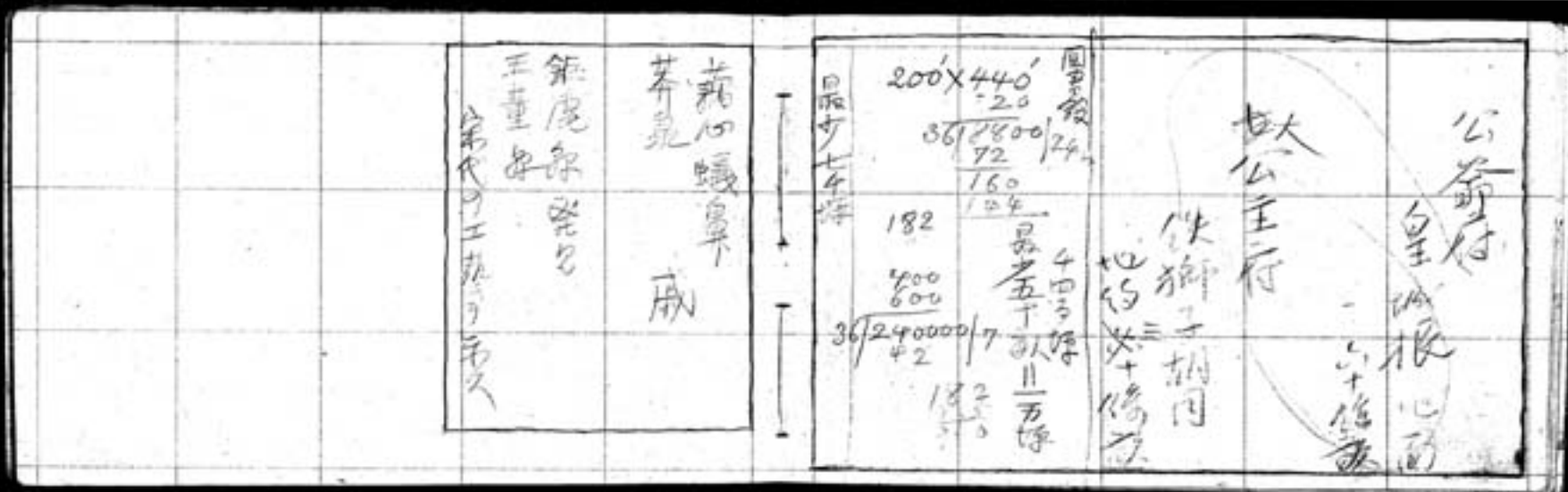
大工賃銀 八〇
石工賃銀 八〇
人走賃銀 四〇

煉瓦一萬平
木材(松)尺メ

千八百尺 || 一里 || 五町







報告

一 敷地候補地北京、於て撥正河ハケ野

二 何れも戦内の王府（親王以下貝勒貝子）
生活に於ての買物、出せり

三 城外と廣瀬ノ地、低廉ナル所ナリ、流カモ中
不便、不安、且ツ在東運物利用ノ点、若
シ王府ノ何れも適ナリ、日友商委員、
切に希望する所あり、經費を比較的廉ナラ

四 觀察の点

一 面積十分否

二 建築利用ノ大小

三 不變否、四圍ノ環境如何

四 價格低廉否

五 比較研究

一 八ヶ野の說明

二 限位

三 礼王、定王、符合ニ才一位

四 九爺府才二位

五 大茶王府才三位

六 録説

一 瀨川大内氏は、カミ内意を漏れ他、
絶對秘密

二 田氏内交渉（價格）を開始セリ

七 見解

一 總委員會、絶對に建築ノ圖ヲ否絶ス

二 多ク風馬牛不聞ノ体

三 日本委員、眞劍に心配

八 余の決心

一 圖書館、陳列所、鉄筋支那式影茶

二 研究所、住居を模様替

三 會議室、講堂、サキは殿宇を利用

四 左側委員、支那式眺望

九 參考

一 形式に關し、懐和医院に參考

二 燕京大學ハ大ニ參考ナリ

三 文革殿、武英殿、技光、成效ヲ以テ

參考ナリ

十 將來の希望

一 歴史博物館等、のり、收容スベキ一大

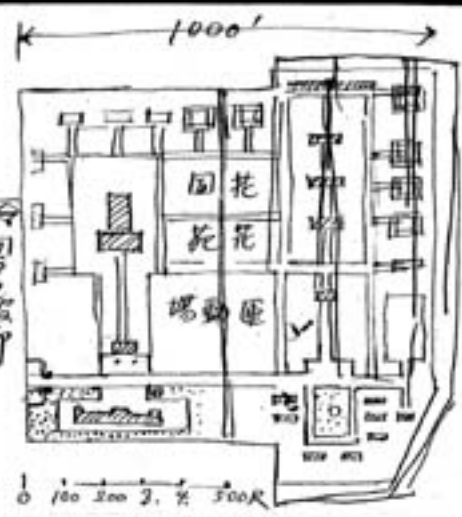
陳列館を得ん

十一 故宮博物館の救助

十二 特別委員派遣

目録
 1. 基地 — 500,000.
 2. 土地税 180,000.
 3. 図書費 1,200,000. (建築費十五万, 設備三十五万)
 4. 列品費 250,000.
 5. 什物費 150,000.
 6. 車部 50,000. (在床込入)
 7. 研究室八個 120,000 (4)
 圖書費 2,500,000.
 設計、監理費 250,000.
 2,750,000.
 図書及列品代. 101外

図書部
 加設地 三百六十坪 近千
 建築費 四百
 附屬 五百坪
 陳列部 全五百坪
 加設地 八百 三百五十坪
 附屬 五十坪
 全三百五十坪
 研究室部 八ヶ所
 一分室 三三三車庫一
 二ヶ所 一層 八ヶ所
 倉庫 百坪
 浴室 五十坪
 浴室 五十坪
 浴室 五十坪



△ア昔小話

●三北京

廿三年振リテ新ニ開テ通リ、
 道路(父氏モハアスナルト)
 街路街燈、電氣、水道、自動車、電話
 文明の都市、道見入、獨ふ。
 乞食カ減シタ(誰モ呉レヌ意)
 八儀モ少シナラツ夫、唯大小便、手ハネモ減ル
 一歩、裏ハ少シモ変ラ又、紅塵、黃地駱駝、
 表、面丈ケ、
 類ヒオシロイモワケテ身ハ垢ダケ
 兵士乱暴、無警、警、無政府
 佛學校ヘミナ閉鎖金ガナイ、
 国民ハ風馬牛、我ノ不聞、
 支那ハ国民アテテ政府ナレ國象ナレコレ
 救千年前カラノ常道

●品門

昔ニ桓武天皇、應天門ヲ工事ヲ視察シ
 高サハ八丈、セロト云フ、工匠思ヒ、五寸ヲ
 減シテ作ル、天皇見テ「我誤レリ、又五寸ヲ
 メコト云フヘカリレド、五寸高ハ、必ス災ト右ノ
 工匠恐懼シテ白狀、後果シテ大風リ
 為リ倒ル。
 (工匠)
 江戸時代の中頃、下谷廣徳寺の門ヲ造ル

此ノ僞若心ノ名作ナリ、成リテ人皆之ヲ評シ
 又欲キニ失ナリト云フ、工匠之ヲ乳シ、毎日來テ
 門ヲ見テ「尺低カク」と嘆シ、終ニ氣死ス
 右殿の大震、諸堂々々倒シテ、門獨リ
 全シ、人始メテ警覺リ、この門大匠十一年、心ナク
 以上ハ一尺高過ぎ若クハ低過ぎ左例にて
 藝術の微妙、あまうを示す、後人の作り、詭と云ふ
 然るに、何と同一シ話ガツイ、近年ニあり、

京都西本願寺の唐門を作りたる工匠あり、
 門成リテ人評シテ曰ク、油に美あるも軒瓦
 浅かりしと、工匠之を氣にして毎日門を眺メ
 一尺深かりしかと嘆して、終ニ氣死ス、これ
 實際訖ナリ、

然らば、天門、應徳寺の山門の話を事安
 ありべし、
 既今彫の如き忠実ある人ありや疑はし。

一食量、野客車(大荷物持込)

一多量、低價(往果ナシ)

一乗客、飲マズ、只食フ

一車掌は、汚馳走

一断性を顯明ぬ(昨日、札幌にシヨウ)

一無規律、多クシある事

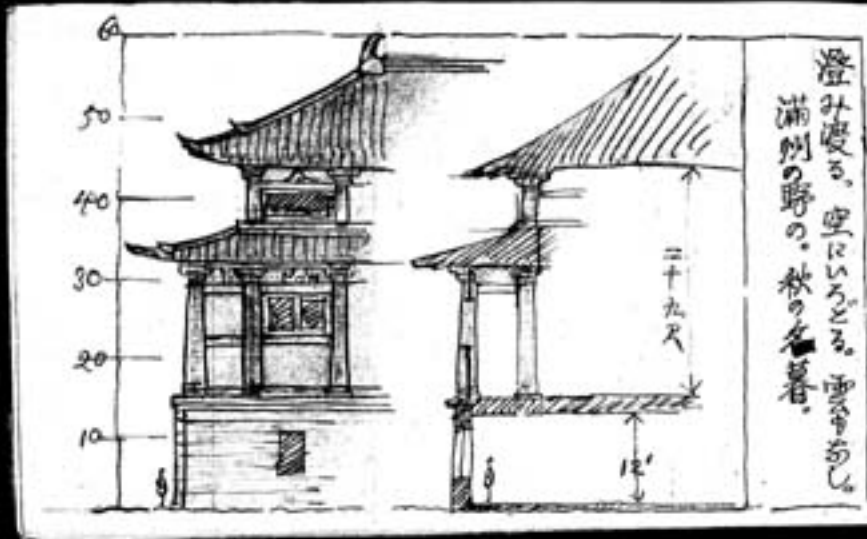
新案日本地圖



北
上
東
南
西



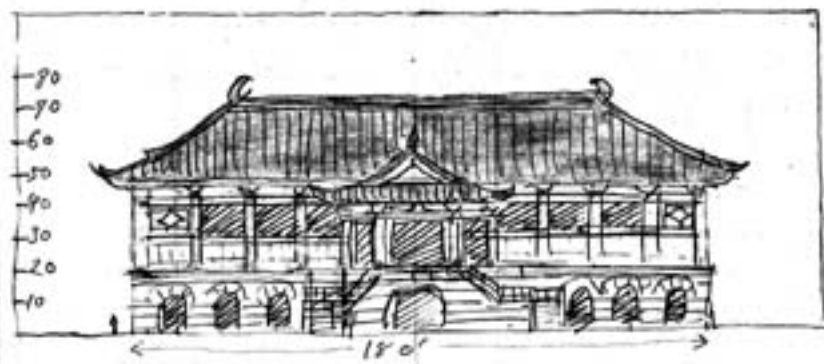
新案日本地圖

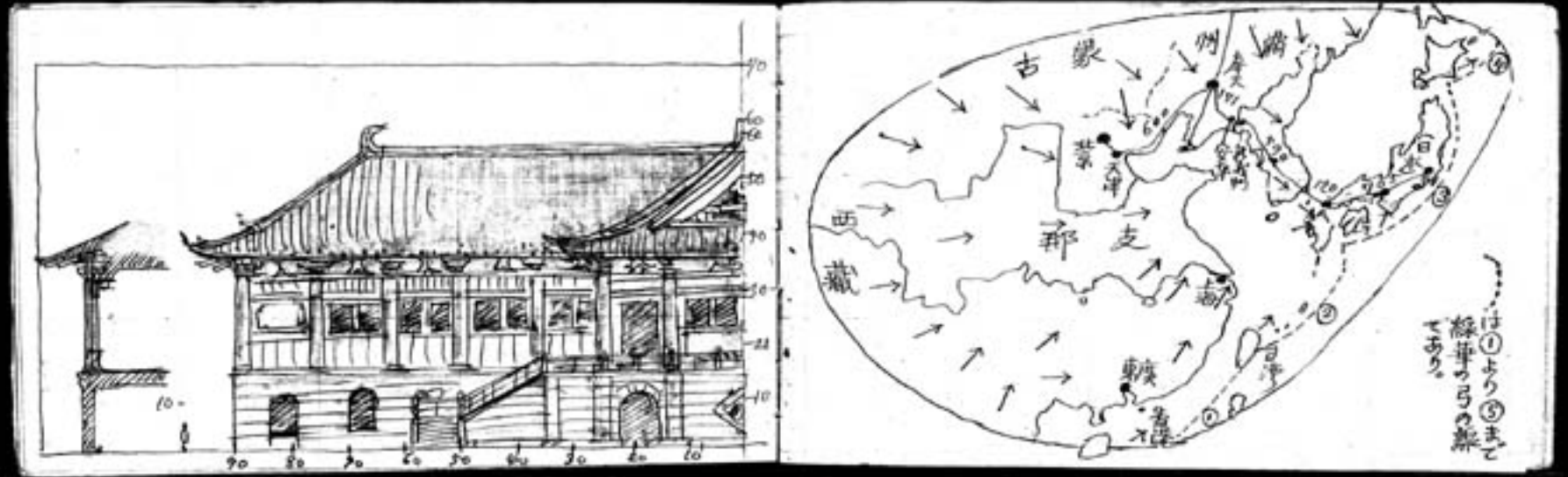


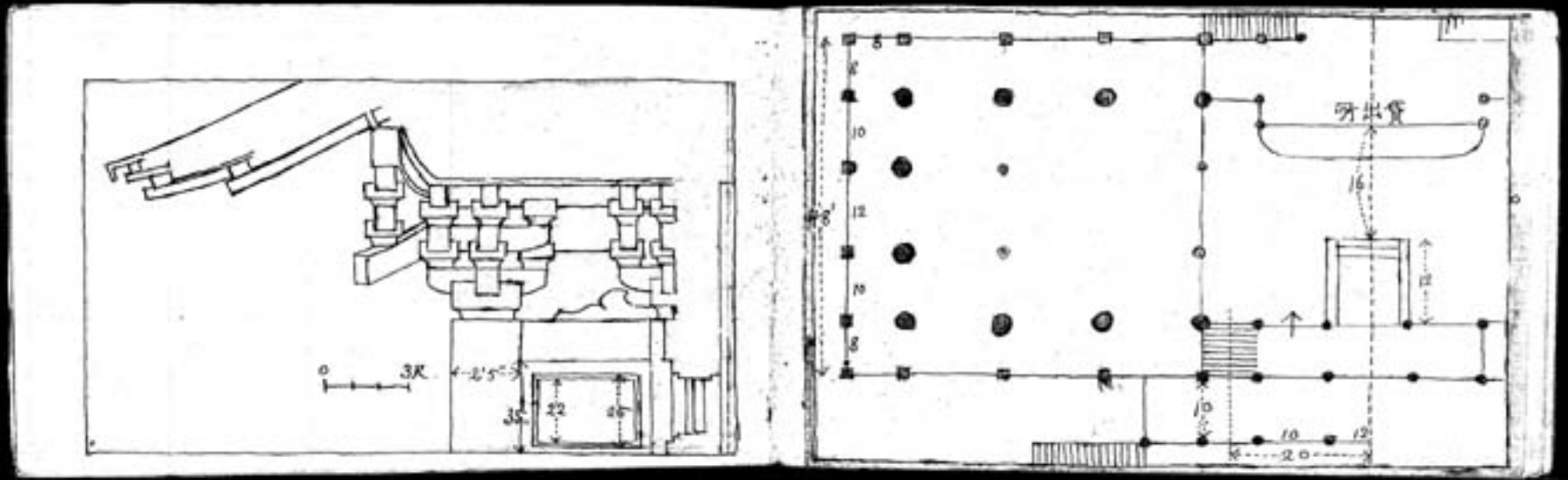
澄み渡る。空にいろどる。雲もあし。
満洲の野の。秋の名著。



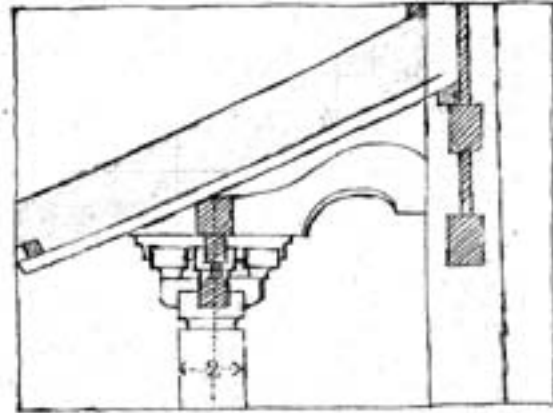
唐代の根據日本
化唐式(十式)と混和し
更に現代を考へ加へ
即チ日よ(〇〇)
東方文化研究所は適す







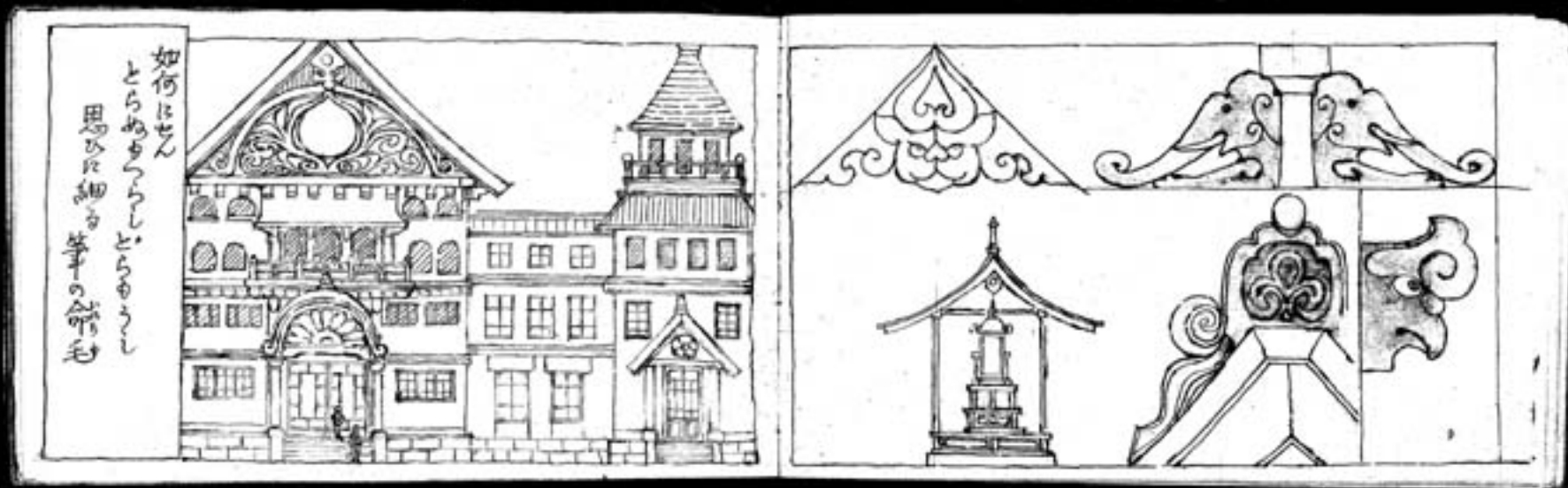
壇廟 5	城都城市	15	明冷 36 ¹	
文廟 8	官殿按閣喜樹	31	70.3	自働車
道教 7	住宅市街	25	大正元年 152.979	教
廟祠 8	公共建茶	20	7	+(27)
仙教 30	湖按門	15	8 1567?	!
回教 15	橋	15	+(77)	
陵墓 30		116.		
		103		





合成父子
 環野碑
 史記卷六
 始皇本紀
 男爲寄嶽殺之毛罪
 會替碑





日毎くあせまさり行く庭面の、
菖の色香の惜くもある哉、

御杣山深きは吾の戀ほど、
高きは神の秘蔵あるらん、

見せばやあ三浦郡の人にある、
三峯の海り水のみどりまを、

消へ残も路脱の鈴の音を遠み、
夕風すくしゴビの沙原、

秋を高み汗の地氣を夜出て、
薄氷をよむ奉天の朝、

あこり行く人の姿はうつれとも、
かこつぬ者は心ありけり、

すみ渡る空に色たる雲中あり、
滿野の野の秋の夕ぐれ、

人間はく秋は浴へん白河の、
關路を越へて陸の奥まで、

千年ある江川の水はいや清く、
流れはつきじ伊豆の並山、

いかにせん取らぬもつらしとるやうし、
思ひに細る葦千の命毛、

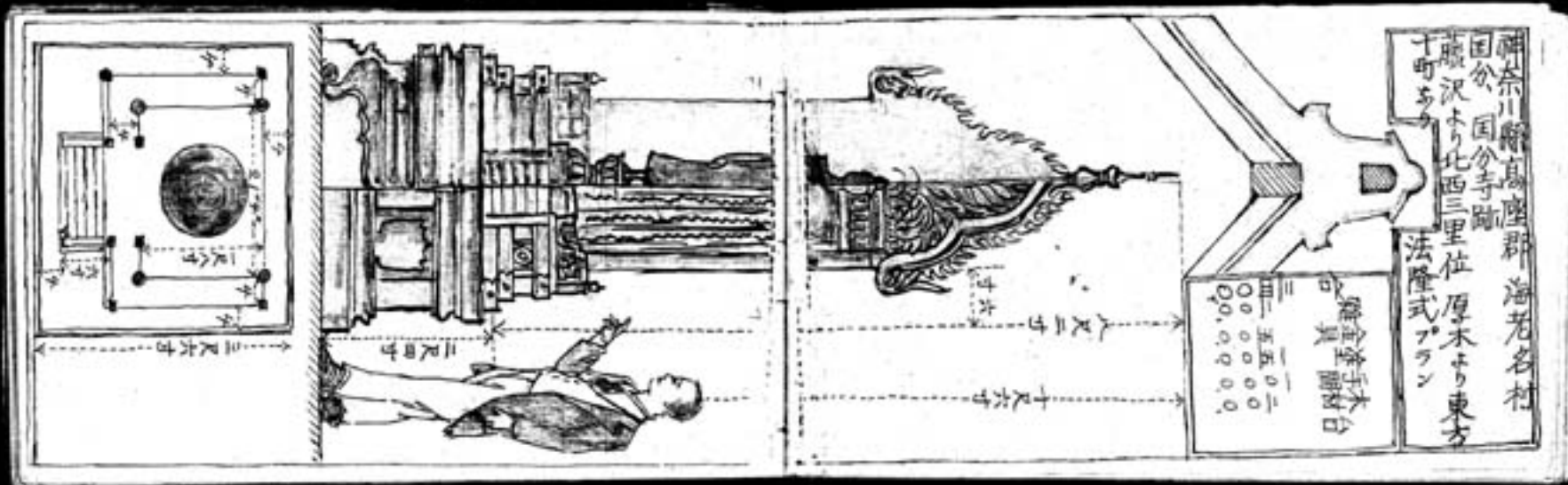
橘五題

あり絲の細き心も一葉地に、
張うつめこたそ強きかき橘

底知れぬ谷間ばかりる危ふさ中、
知らそや渡る戀のかけはし、

夕方の雲井の空の高ければ、
またあみも見えず鶉のはし。

丸木橋よし危くも見渡らば、
よき浮世あり沈みあり。



對	劑	躰	澤	走	榮	來	圓	豐	區	淺	變	辨	聲	會	當
刘	剂	体	沢	走	榮	來	円	豊	区	浅	変	弁	声	会	当

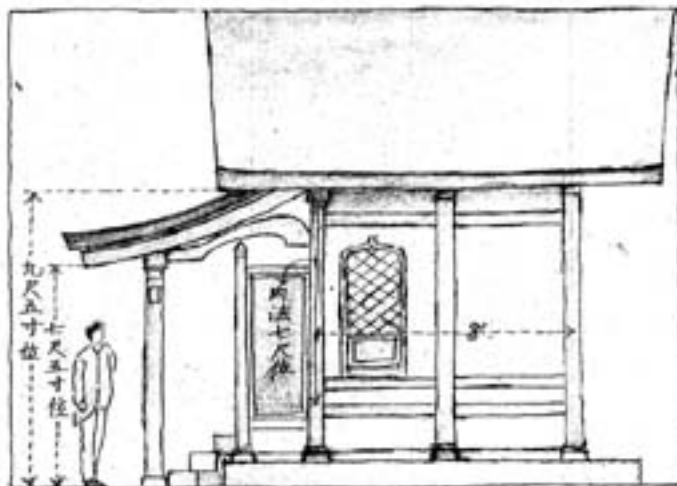
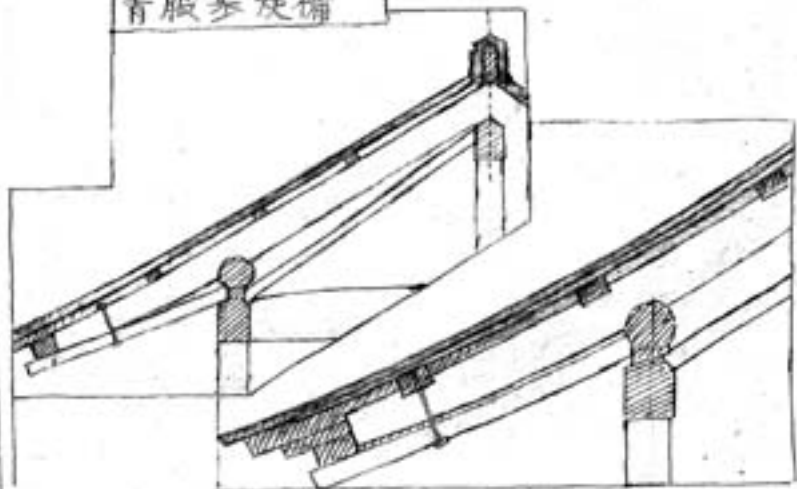
佛	邊	輕	關	處	假	鐵	國	續	畫	歸	協	樣	實	留	福	廣
仏	辺	軽	関	処	仮	鉄	国	続	画	帰	協	様	実	留	福	広

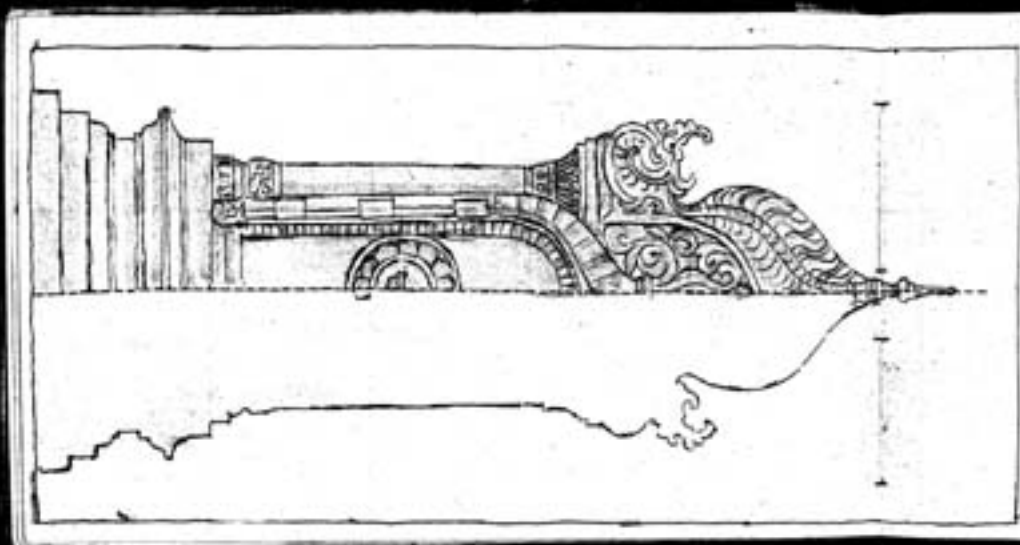
徒	萬	權	違	舉	濱	齡	罐	條	靈	參	廢	屬	樂	藥	醫
徒	万	権	違	挙	浜	齡	缶	条	霊	参	廢	属	楽	薬	医

學	龍	驛	獨	數	刻	斷	從	總	帶	氣	圍	滿	禮	兩	觀
学	竜	驛	独	数	刻	断	從	総	帯	気	圍	満	礼	兩	観

報知新聞の異字と語字

青服歩灰備

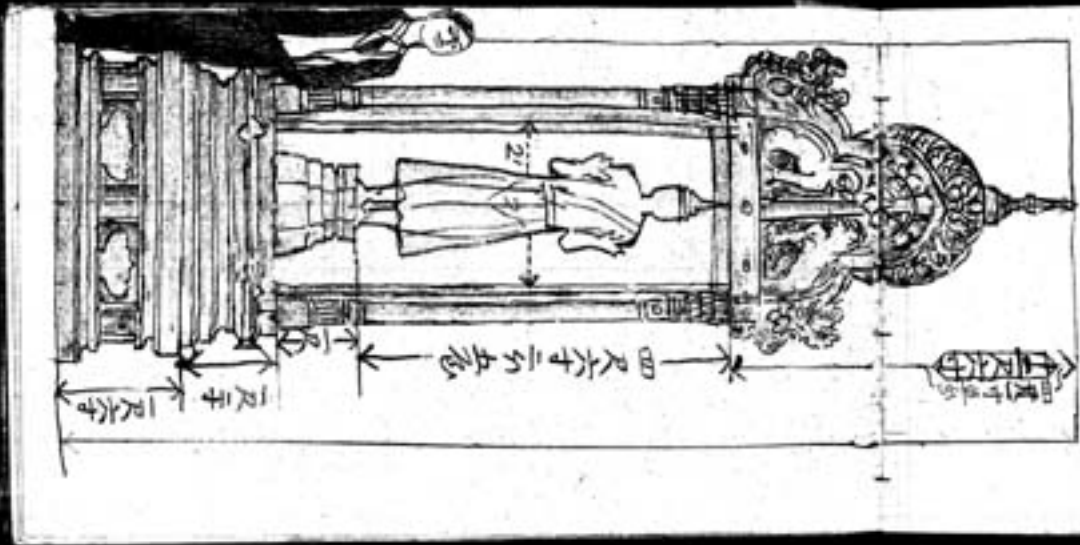




三

佐々木岩次郎君之孝之助君

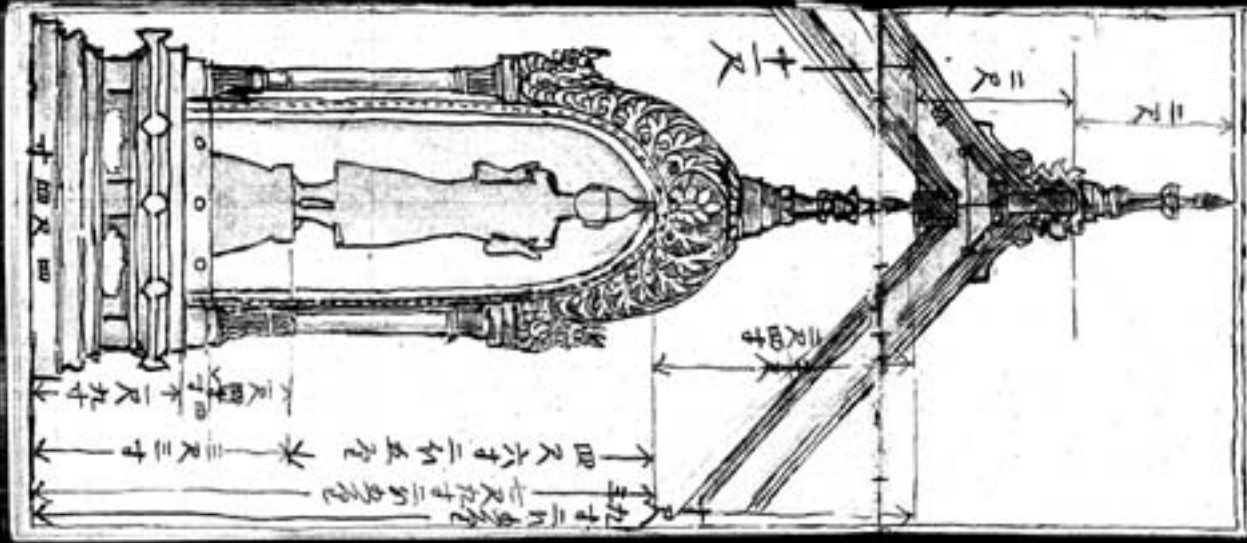
爰に侍銀介申上す
 佐々木岩次郎君は、日本建築の泰斗に
 有之、今見孝之助君は早稲田大書出
 身の敏腕なる少壮建築家中、其に人
 格俊美なる人は有之、仰文子共力して
 数年より、建築事務所を開始懇
 屏也。
 御会社の侍任事にて佐々木氏文子
 に相應の仕事中有之り、修し何卒此
 命。

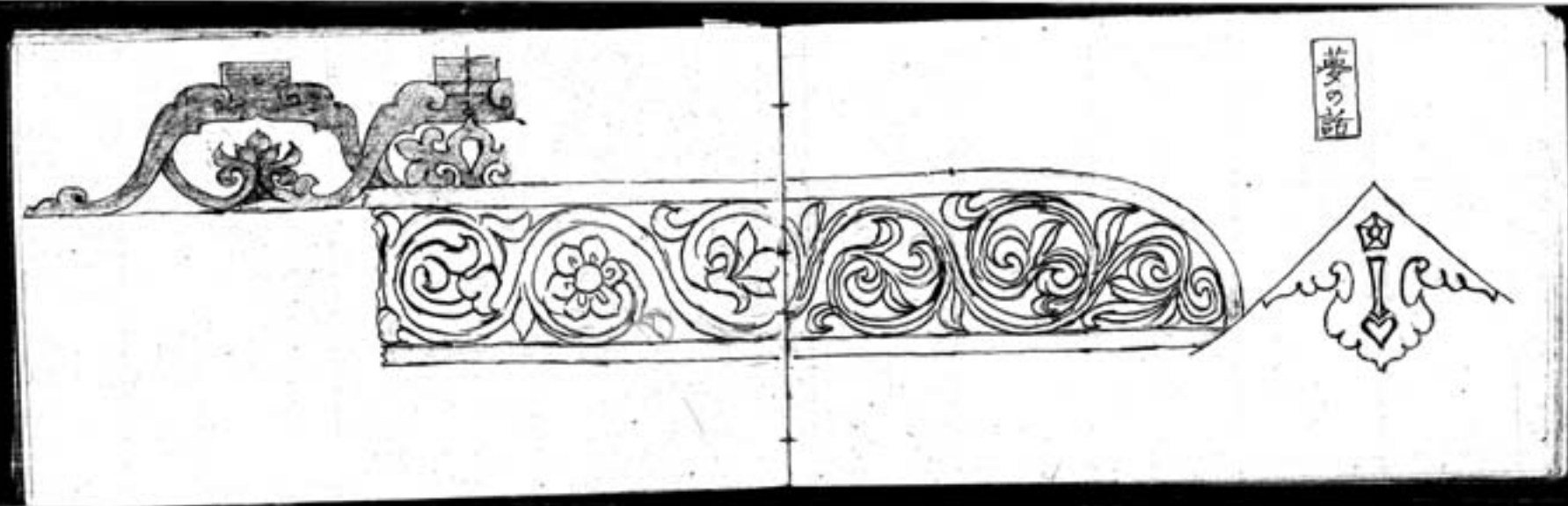


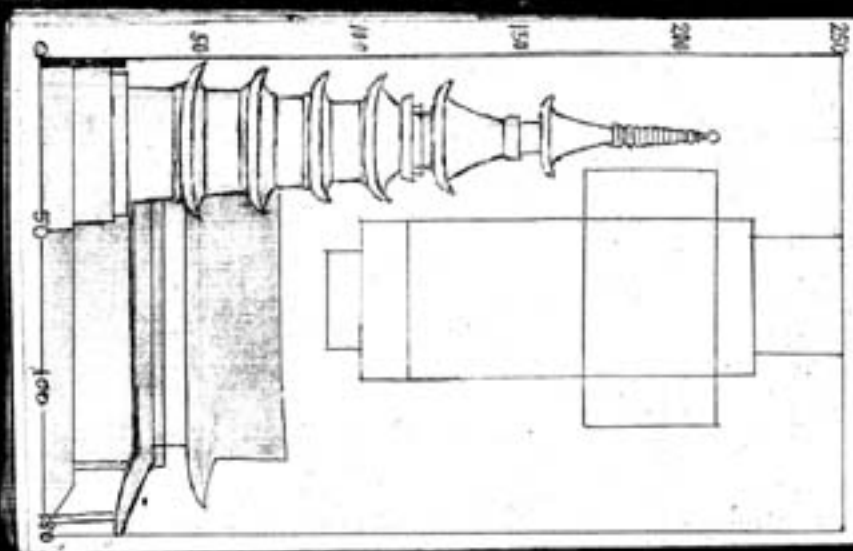
一

二

三







報告 惣元洪印

① 位置——好原四方道路、便利。

② 大サ——約九千五百坪、先ア沃山。

③ 内容——エ、熱頭、東部に廣地、西部に家屋、修繕され、

電燈、暖房設備あり、

少シの手入して使へる家具。

④ 價格——既往八ヶ所から見る、最高四十七坪、以上最低二十坪、ソノ中間之見、

三ヶ所にて二十八萬五千円、建物價

大分、却て使ひ頃、五、三十、四十

を標準として可なり。

古不敷地利用の方針を考定し各

部の分布を計画し、なり別紙参照

を奉。



恐らく直譯文化

- ①友人の父病ありて医術葡萄酒をたうか
- ②友人解良ある酒を買はしめて高價
- ③父若酒を嗜めど洋酒を増す強てド
- ④酒をとりて却て死持を免く
- ⑤子愛へて西に語る医に医者はより開
- ⑥て医に問す曰く日本酒結構あり洋書に
- ⑦洋風によりてワインと書く日本ありは
- ⑧然日本酒あり父若はすも喜んぞと
- ⑨盛夏はフシヤ扇をきき着て苦しがる人あり
- ⑩何と博物を著るやと云ふ
- ⑪伯林ハ十度東京に九十度以上
- ⑫明治三十年頃日本音曲り思ひ其思し千
- ⑬代杖を見るに政明が熱敷する時妙手自
- ⑭振りて踊り居る扇鏡として悲むべき踊
- ⑮る不都合あり宜しく改むべし
- ⑯日本に白いデッサンあり函室あり木だの奥
- ⑰の繪画にあらず

今日正ほこの城を脱せざるは何ぞや
 西を有よ時刻を見よ建築を見よ
 博覧間の研究を見よ
 (一)は種に合ひぬとて名説中顧みらぬ

ワシの國より宿時の空

- ① 已れの智子員けるふ (現代キキ)
- ② 我々吾強悪 (現代キキ)
- ③ 自己を得意する文化の發達 (公民)
- ④ 文壇の中毒 (公民)
- ⑤ 直譯學問の危險 日本 汽車の食堂 朝鮮と内地
- ⑥ 杜撰難
- ⑦ 風景保存 (日々)
- ⑧ 自然征服の志願者
- ⑨ 進歩が退歩か
- ⑩ 同室の僥倖
- ⑪ 古今欵例
- ⑫ 馬鹿をつける言葉
- ⑬ 人の禪
- ⑭ 物の定年
- ⑮ けり扇り
- ⑯ 材料之形
- ⑰ 現代の藝術
- ⑱ 藝術概
- ⑳ 長所即短所
- ㉑ 運郵致

アスベスト (石棉)

世界生産額 三十万噸

カナダ 三〇〇〇〇〇

中亞フリカ 二〇〇〇〇〇

ウラル 一〇〇〇〇〇

アムズ 一〇〇〇〇〇

日本 七〇〇

その他
 日本 秩父、長崎、岩手、北海道、
 静岡、但し粉木
 繊維三寸が極度多く一寸以内五分以上等
 一噸最上三千五百円、下等百五十円
 支那、四川、陝西、アムドモ採取困難
 滿州少量、朝鮮少量

文壇の中毒

- ① 社会各方の病的現象
- ② マジック放漫、利己、虚栄、怠惰
- ③ 古への義理人情、先賢の勤勉の皆無
- ④ 弱者の憂を憂、挽回の策を謀らざる
- ⑤ 病源ヲ知ラズニテ治スルヲ増テ、病ヲ治スルヲ病源ハ文壇の自家中毒
- ⑥ 維新の未だ急激ニ興長シタル又時
- ⑦ 胃モ腸モ多ク、全身ミナ弱リ、體至弱
- ⑧ 力シモノチ、強ク如ク、飽ヲ知ズ、マシ病源
- ⑨ 根柢ノ劣アリテ、曰クナシ、ハ、備極モク
- ⑩ 對症 薬、ナシ

⑪ 特殊の變化が非凡の政治家カラ候ワ、刺戟ノ強イモノヲ要求ス。年々トント人ハ云、
 ⑫ 世ノ中ハ、次ヲは、意ヲ行フ世智ハナク、ナル義理人情ハ、スレバ、虚偽心ハ、ハ、コトナリ、
 ⑬ 昔ノ堅實カ、徳ヒレ、若シ人ハ、コト、世ノ中ハ、益々進歩スルマシ、面白クナリ、
 ⑭ 世ノ變ワレテ、苦ナリ、ハ、何故カ、
 ⑮ 今為政者ノ罪カ、

⑯ ナレルより外ナレ
 ⑰ 湯ニ據テ、臭、泥、痔、ム、臭
 ⑱ 各自中毒シテ居ルヲ倍ワセ、
 ⑲ ヨシトク
 ⑳ ナリ、
 ㉑ 注意セヨ

● 拜外と撤外

- ① 對峙の形 甲 警嘆
- ② 拜外の根柢 乙 二續、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
- ③ 拜外現象 吾々英国外語ヲ通ズ
- ④ 非外の心理 外人ノ訪問
- ⑤ 余の経験人 設計、依頼
- ⑥ 風俗人情の差 融和ハ六カレイ
- ⑦ 長知取捨難
- ⑧ 犬ノ付益と猫ノ捕鼠
- ⑨ 百ニ其長ヲ取レズ
- ⑩ 拜外ノ題、撤外ノ類
- ⑪ 白ラ正シテ、持テ、冷静ニ、彼ヲ觀ヨ
- ⑫ 彼ノ感化ヲ恐ル、ナ
- ⑬ 外食ヲ、撤ス、モ、アリ、併シ、胃ヲ、健ナレバ
- ⑭ 利アフテ、毒ナレ
- ⑮ 先ワ、ビ、ケ、胃ヲ、健ニセヨ、何デモ、消化スルカ、ヲ、養ハ
- ⑯ 拜外ハ、巴、レ、胃ヲ、知ラ、又、痴人
- ⑰ 撤外ハ、胃ノ、弱イ、人ノ、悲鳴
- ⑱ 今日ノ、卑、ロ、拜外ニ、傾キ、過キル
- ⑲ コレヲ、査、制スル、ヲ、有、意、義

風俗保存

- ① 日本風の保存
外名に改換して知る日本風俗
- ② 日本と国民性
日本人の清く美し心雄壯は久く
保存の必要あり
- ③ 文化と風俗
文化は文明の進歩を以てし、
風俗は文化の根柢を以てす。
- ④ 山嶽と風俗
日本の山や谷は、神と國傳、信仰の
西陣の山ハ土石、表ハ植物
- ⑤ 風俗と西洋
西洋の風俗ハ、西洋の風俗ハ、
日本風の山や谷ハ、神と國傳、信仰の
- ⑥ 建築と風俗
建築は風俗の表現なり、
西洋の建築ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑦ 美術と風俗
美術は風俗の表現なり、
西洋の美術ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑧ 自然と風俗
自然は風俗の表現なり、
西洋の自然ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑨ 繪画と風俗
繪画は風俗の表現なり、
西洋の繪画ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑩ 建築と風俗
建築は風俗の表現なり、
西洋の建築ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑪ 雪隠と風俗
雪隠は風俗の表現なり、
西洋の雪隠ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑫ 浴衣と風俗
浴衣は風俗の表現なり、
西洋の浴衣ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑬ 人形と風俗
人形は風俗の表現なり、
西洋の人形ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑭ 批評家と風俗
批評家は風俗の表現なり、
西洋の批評家ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑮ 風俗と風俗
風俗は風俗の表現なり、
西洋の風俗ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑯ 風俗と風俗
風俗は風俗の表現なり、
西洋の風俗ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑰ 風俗と風俗
風俗は風俗の表現なり、
西洋の風俗ハ、西洋の風俗ハ、
- ⑱ 風俗と風俗
風俗は風俗の表現なり、
西洋の風俗ハ、西洋の風俗ハ、

批評雑誌

- ① 在東京の批評雑誌
- ② 余ハ批評雑誌ニ自已在位
- ③ 批評の根柢一自已在位
- ④ 個人性ニ異ナル故、他ヲ非難ス
- ⑤ 虚心坦懐、他ノ心理ヲ洞悉ス
- ⑥ 物ニヨル批評雑誌勿
- ⑦ 藝術的條件ハ困難
- ⑧ 自己ニ對シテ力ナシハ難日
- ⑨ 繪画、彫刻、見方ニ在リテハ難
- ⑩ 建築業ハ亦ニ困難
- ⑪ 雪隠小便ヲ作ラレト云ハ、批評家
- ⑫ 余ノ体験ニ天竜門
- ⑬ 建築業の拘束、終末ノ困難
- ⑭ 人物評、強ト云フニヨリテ外レル
- ⑮ 批評家ト作家ハ全ク別トハレカ
- ⑯ 風俗任ノ批評ハ有案
- ⑰ 匿名ニ就テ
- ⑱ 續尾

建築學介定款改正意見

一 久し振りの振換
 二 學會の進退を善女仕方次山會会に優る
 三 陳容立三進に定款の變換は適七也
 四 今はとて一掃、制度強は役員一國と云の政体
 五 今副會長はコレ君主國
 六 他と學會は理事を長副コレ共和國
 七 學會ノ形ハ君主國、安リ共和國、不可
 八 二年改選ハ何ノ長會長字文化ハ無意味
 九 會長要する任期無制限タレ
 十 君主國(六憲)即チ日本の政体
 十一 二年交代必要する共和國と云米仏独の
 十二 會長の資力格、多ク得難キ事又十
 十三 君主國ト共和國ノ比共和國ノ悲哀
 十四 君主國勝レ旧說一轉レテ新說
 十五 一國ヲ一政ハ管ヘル家長主権者ヨリ
 十六 道徳ノ根原ヲ忠、順、
 十七 家族共治ハ米歐父母ノ權ヲ七故、孝ナレ
 十八 是ヲ仰テ侮ラ上長を敬シ留者ヲ呪フ
 十九 丘君、現階級觀念の爲ニ世に維持せらる、
 二十 階級打破ハ社會ヲ滅亡ニ導クモノ
 二十一 共和ハワ、劍
 二十二 君主制ハ暴君ヲ恐レ何事セ人ヲ別向顯
 二十三 學會ノ如キ理想ニ近ク心カケ

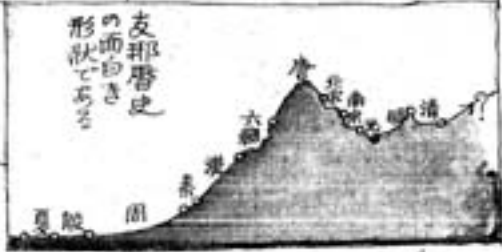
● 島地大等
 ● 執行及道
 ● 安河内麻吉
 ● 沼波武夫
 ● 奥宮正治
 ● 林川徳之介
 ● 堀 貞
 ● 村野常右五門
 ● 村井 茂文
 ● 岡田正之
 ● 在右田喜一郎
 ● 井上敬之助
 ● 菊地横之助
 ● サグルル、ハシヤ
 ● 福田和五郎
 ● 雷權太丈
 ● 西郷吉義
 ● 嶋崎 巽
 ● 加藤定吉
 ● 二条原基
 ● 伊藤大八
 ● 須井時雄

● 學會ハ會長無限
 ● 會長ハ長蛇大臣ヲ
 ● 四ニス位徳望アリ
 ● 屋敷ヲ
 ● 屏外ニ據外
 ● 時ヲ扇行
 ● 窮余の富野某子
 ● 物ニ定業我
 ● 國家一年ノ計
 ● 宜ム之スレバ人ハ
 ● 已レ知悉ニ復ス
 ● 似ト兆アリキ
 ● 瑞々スシキ教夫
 ● 人ノ禪
 ● 古今規例
 ● 馬鹿ニツケル事
 ● 紐以東外國學
 ● 拜ハ禮狀
 ● 國宝の價値
 ● 進歩ハ通歩
 ● 新型の人
 ● 批評難
 ● 直浮文化

● 家學明道
 ● 徳富健次郎

蜀ノ戸口 (滅亡当時)	呉ノ戸口 (滅亡当時)
家 280000.	528000.
男女 940000.	2200000
兵 102000.	230000
官吏 40000.	32000
<u>1362000.</u>	<u>2990000</u>

蜀 1082000
呉 2532100
魏 3000000
<u>6614000</u>



支那國の人口	
周初	20000000
秦漢	30000000
三國末	?
六朝末	70000000
唐末	150000000
宋末	300000000
明末	800000000
清末	2000000000
清初	4000000000

1 存在は問題にちがひなし見へる人は見へる
 2 見へる人は見へる
 3 見へるから然りとせば
 4 見へるから有と云ふ

何て云ふもの(文藝春秋)
 窮乏の窮現(象?)
 建築の定三義(法律春秋)
 塔の語(大阪毎日)
 米蘭歐と建築的(東京日々)
 化け物と幽霊(科學知識)

巴の智に及べり

孔明を伐て街亭は大敗して退て
西城を據る彼の大将仲達十五万
の兵を以て追撃し来り孔明五千の
兵の中羊は外に出で城は僅かに
丈官と雜兵共二千餘人の孔明時
は途方に落北しが一策を案じ城門
を開放して雜投の人夫は道を掃ひ
水をそがしめ自ら城門の上に出で華
陽巾を載き鶴髦を被し人童子を
左右に伴は擲は槍り香を焚き琴を彈
して端然として坐す仲達之を望見するに
童子は左に宝劍左に王慶尼を捧げ
孔明は莞尔として莞尔として笑つて琴を
彈す仲達驚き極み必定あらんと思ひて
別き退けり

魏川家康油桐物は武田に用まれ策冬
く浦井忠也本敵を打て馬場美濃を遠
くこれ敵の智を逆用せるは死の計
遅く起さ早く採擷の物にせす
常は嘆ふ所の食は数斗に起す
日本今食少事煩はら然れに惡文より
下勿也孔明は病人國民は健全却て
食多事少は可憐也

孔明五丈原に仲達と對陣す
仲達出で孔明中輿縞衣を送りて
史を掬擲す仲達使者に孔明の近狀を
問ふ答へて曰く
丞相成に起き遅く寝對二十以吐
瀉是を覺る常に嘆ふ所り食は數
升に過ぎず仲達曰く孔明食少こと
事煩い豈よく久しからんや孔明その
後問もあて死を多はし柿結核の屬あり

今や世智幸き世中云いながら
又は甚しく惜は一滴り人は安達の食
食を贅ふが食多くして勞少なる
か豈よく久しからんと云ひ度い
多少の食數は死を病の病的に
危くふれども健康人は何の害にも
ある少くは医家を待たずして
考へて見て宜しからんべし

之は對して徒食の日本ニ生ふる由て
精神的に中輿精神の糧少くして
芳華は無理スグニ行つるが精神的
は過食と疎木の法は院文物を過食し
しるや閑居して之を消化し得られは危
か適当に擲らるべき也



キズクエテ終正高と至つて後止カテアル
 コノカラ先キトシニ旋轉し推移スルモ
 方向モ分ラヌト思フカ？
 此ノ四人カエリト北カ自然カワカ胃ガ
 空カ公自欲ミ食慾ガ出ル胃ガ満レバ
 自ラ食ハヌ海スレバ敵ムラガ出ル
 違ケル時ハ不思議ニ運力ガ出ル
 家貧シテ孝子出テ同乱レテ忠臣出テ
 大道マダレテ聖人出テアルモ同ト運流
 人カ病カ公自然ニ病ニ對スル抵抗力ガ出ル
 貧乏ニカ公自然ニ金策ノ知識ガ出ル
 現代ハ世カ甘智辛クナリ生活ガ苦シク
 コト切リ抜ケル工夫ハ自ラ出テ自然
 ノカノミ今中音人ハ現代泥田ノ中人
 踊ミ込ミタテナモ也

駁スルシ、世ノ中、啓明特許、發見、送迎、
 運アラス、今日、啓明ハ明日ハ古イ
 朝ノ新當は夕ハ陳腐
 之ニ日進月歩ト稱シ文化向上ニミテ詠歌美トテ
 文明人生ノ幸福ト云フモ
 思ヒシコ然ルヤ？
 凡ソ啓明ハ必要ナリ生テ、吾等ニ啓明ハ
 窮餘ニ出テ窮テニ啓明トシ、窮テハ自ら
 通ト云ホ中ノ極端ト由ルハ自然ニ何トカ辨
 決、途ヲ索出カスル
 一 朝、市中ノ發達、一 高層建築、數層階級
 往來規則、一 道路擴充、
 交通規則、一 高尚住宅、
 智識の發達、一 出版界の計画
 通信の發達、一 電報、電話、
 前スルカ自然ニ活路ヲ考ヘハ能力ガ出ル
 泥田ハ足ヲ以テ込シモカケバマダノ派ナナル
 コト時コレヲ救ク方法ヲ考ヘテハナラズ
 今人ハコレヲ足、故ク工夫ヲ考ヘテ天明
 ンテ啓明ト稱シ、始ヨリ泥田ト云テ啓明ト云
 餘計トモラ食ヲ養フテ養フテ養フテ
 始ヨリ餘計トモラ食ヲ養フテ養フテ養フテ
 餅トモラ食ハ泥田ト云テ餘計トモラ食ヲ
 夕ノ救フ方法ヲ考ヘテハナラズ
 コレ成功シタトテ何ノ文化ノ向上ノ泥田ト云
 フ食ハス、原踏ニ交レト叫ブコトガ出来ルハ
 論ナレ、時ハ前ヘ進ミ、時ハ老人ハ小供ト
 ナルト云フテダメ、
 理命、進、テ、
 付

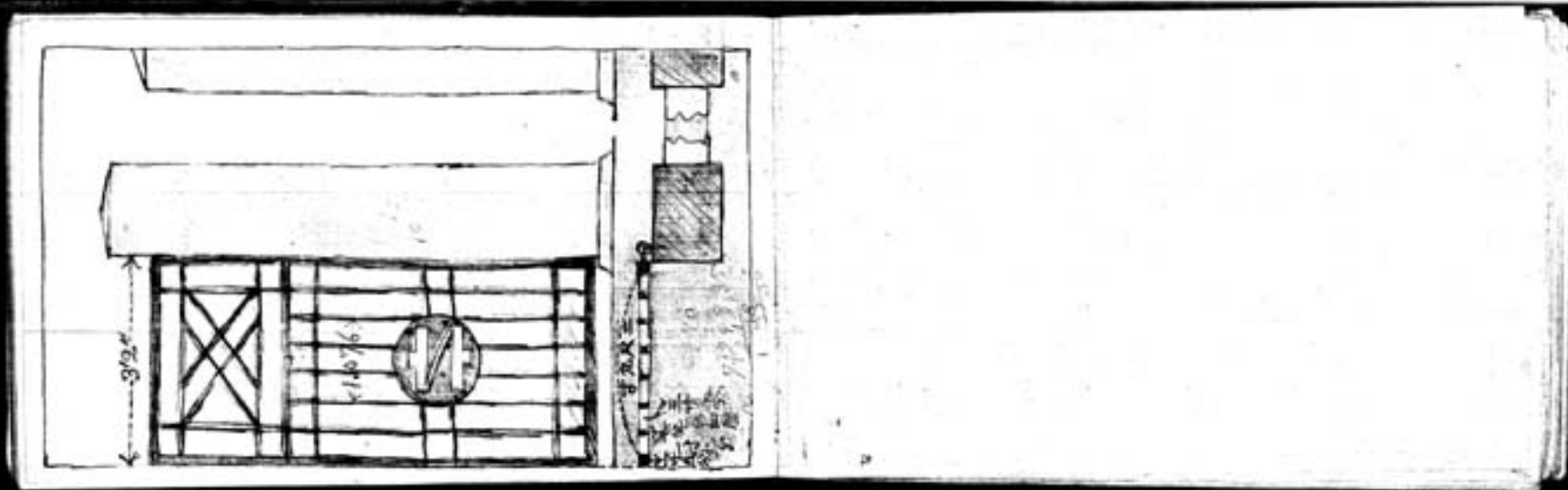
● 国家百年の計

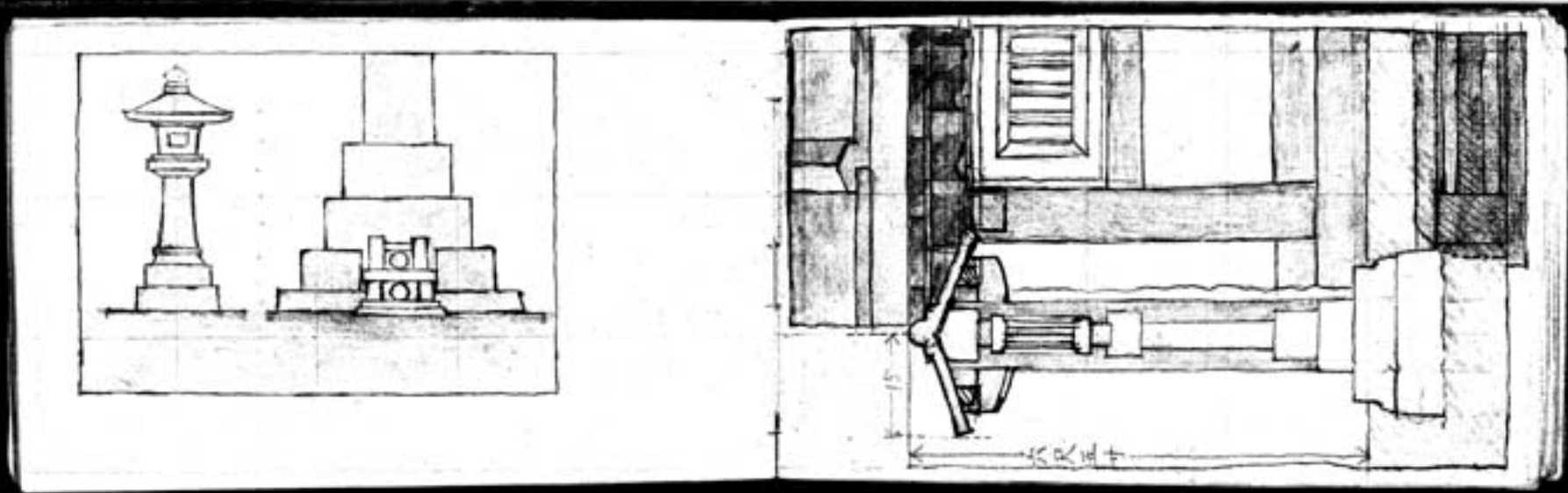
〇〇〇〇

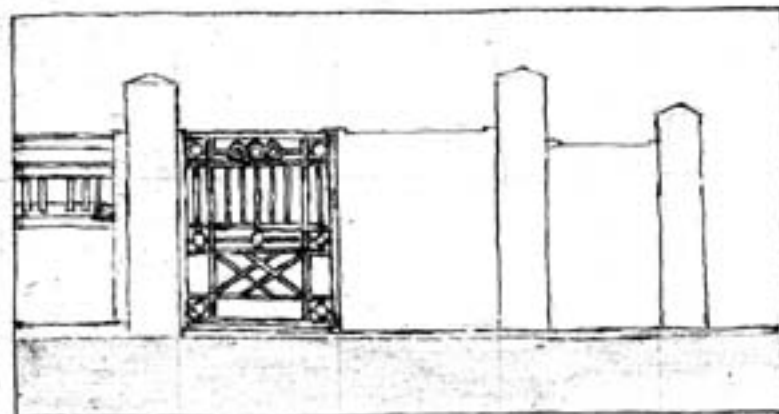
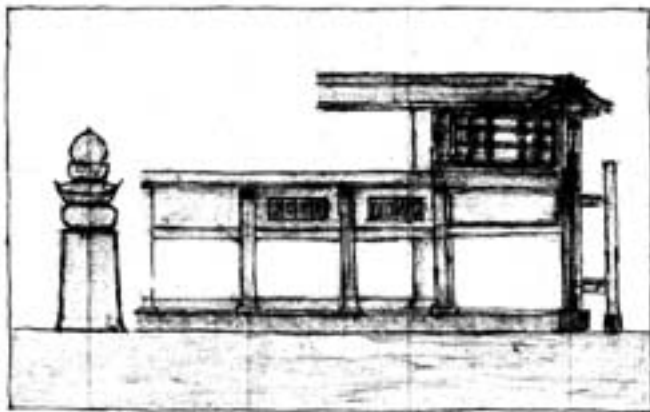
- (一) 震災当時東京区劃ノ根本的整理
運言国家百年ノ計其政治。
- (二) 彼(識)ニテ曰ク国家百年ノ計ハ學者
ノ理想論、實際ノ政治家ハ二年ノ計
ニ果然成る程ニ感服
- (三) 如何ニシテ来年ノ議會ヲ切リヌケルカ、
- (四) 政党ヲテ国家ナシ
- (五) 自家アツテ国家ナシ、コレデハ支那ヲ
笑ヘテ
- (六) 国家觀念ヲ普スベシ、今カラテモ選
クハナイ。
- (七) 目先キノ功名ヲ思フナ

● 神社に関する七不思議

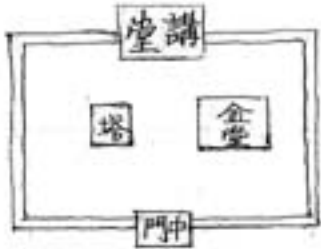
- (一) 古來の敷地を動かぬ
- (二) 祭祀の古式
- (三) 祭祀の狂態
- (四) 縁日の賑はひ
- (五) 原始的建築
- (六) 最新建築と共存
- (七) 参詣の老若





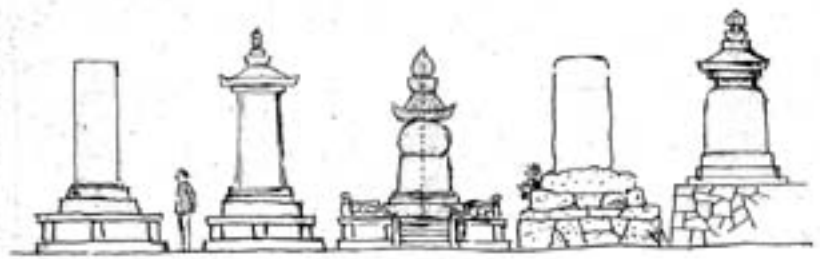


相模国分寺
神奈川県高座郡
海老名村国分



法隆寺式
祖シヤト大アリ

↑
瓦々雁鳥式
皆天平式アリ



- 似て非なるもの
- ① 世に非ざるに多し、益する何れも
 さるもの精神である、
 教(キリス)が三差当り七ツを挙げ、
- ① 學者と物戯り
 - ② 粗放漢と豪傑と
 - ③ 天才と狂人
 - ④ 凡流と放蕩
 - ⑤ 実業家と山師
 - ⑥ 政治家と政党屋
 - ⑦ 国士と無教漢

ワールド八月號

貴重時間勵行

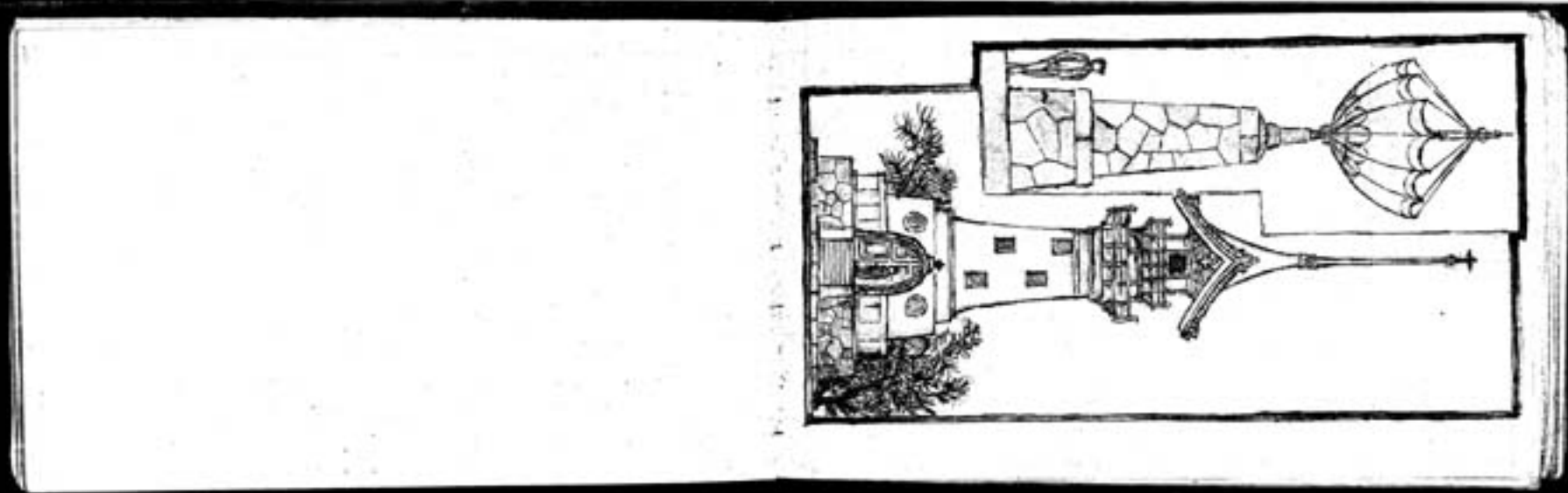
一時間二秒ヲ古人ハ及壁室非テ陰是競ス
 日本人ハ七時間ヲ勵行セヌ、田舎アハ一
 時ノ會開カ三時四時ニナル
 帝都の奥中セも三十分や一時間
 一自かい之ヲ痛感シテ居ルカヲ勵行スル
 一ミレテ居ル

一例、講演は頼マレテ三時から約東直ちに
 初め迄、聴衆数人半ニミテ十数人終ラ
 シタル時表十人

二例、何時カ、何時マデ、何十分間と約束シテ
 ソノ時先人カ三時間ヲ自カノ時間
 カ過ぎ去ワタリ歸ルト主張シタカ、巴ムヲ得ス
 五十分間許リセツた。

外務省 陸軍省 海軍省 文部省 農商省 逓信省 鐵道省

中木 橋川 義隆 田原 三山 中望 小嶋
 田原 三山 中望 小嶋
 田原 三山 中望 小嶋



時代の光とかり、頭を白髪に一歩出せ コレカ危陰悲劇?
 階級思想の退化こそ個人主義自由の推進。スグ引又カスル。
 又生へル 終へ半白トハハ後キキレズコト故任ス 終へ雪白トハハ
 階級思想張ケルハ安全ナリ、強固ナリ。ユカ退化スルハ 犠牲者
 ナリ失ヒ困窮力ヲ失ヒ不安トナス 終エ七ブ
 欧州諸国ハコレ也、日本ハ歩一歩ニ之ニ近ク
 天寿ハ如何トナシ難シ。為政者ハ一日ハ寿命ヲ延スヲ考ヘト
 心ヲ高キルハ少シトシテ中ニ長七ニ後知スルヲ努力ス。

Frank Lloyd Wright.

1868? Wisconsin 州 Spring Green 博得場カラナ M. 年ヲ
 田舎ニ産ル。父母一名紳トナシ祖先ハ欧州渡航者 最初一人ナリ、却テ
 ナリ藝術ヲ嗜ム、母ハ建築家ニセントゴシックノ寺ノ繪ヲ額トシテ部屋
 ニ掲ゲタ。長コト Madison 町、Wisconsin 工科大学ニ入り、
 Engineering ヲ修メタ(建築科トナリ)。中途退學シテ建築ヲ研習シテ
 1886. ナハオニ Chicago, Sullivan ノ事務所ニ入り師事シタ。
 其カニ Sullivan ノ Design ヲ弟子ニ任セタ Wright 自ラ Design
 ニタリテ破門シテタ。彼ハ 1910 欧土ニ遊ビテ Wasmuth 社ニ於テ
 作品集ヲ出版セシ彼ノ名ハ知ラレタ。
 1916 日本ニ來リ大正ノ管ニテ帝國ホテルヲ作ラシ。彼ハ東洋建築ヲ研究
 シテナリ。帝國ホテルノ Designer 直感的に獨創ニテ五ノ層ヲ居ル。
 彼ハ今 Spring green 丘ニテ Studio ヲ作リテナリ。
 Mendelschön 名知由彼ヲ賞讃シテ指サシ。 Montenegro,
 Danse ト、觀開カ彼ヲ若クニ氣腹ヲ語ラシ。

論文

牧野	90
波部	75
内田	80
富永	75
三上	75
竹島	80
玉吳	85

Lulu Henry Sullivan 1856, 9, 3, Boston, South
 Bennet Street 産, 父, Patrick, 母, Andrienne.
 Boston, Massachusetts 工科大学に学んで卒業後少時 Philadelphia
 + Chicago へ赴き 1874 年 11 月 - 1876 年 Paris, Ecole de Beaux-arts
 に入学して卒業。1876 以後 - 1895 年 Adler + Sullivan
 事務所に在り。1893 The Transportation Building の最高賞牌
 を得た名譽を擧げし。個性著しい独創的 + 頑固 + 人非りて
 流行のつた。1924. 4. 10 心臓病で死す、
 代表的名建築

1. The Chicago Auditorium
2. The Getty Tomb.
3. The Wainwright Bldg.
4. The Transportation Bldg.

(2)

小磯吉人の墓 弘善院山門 漢野徳一寺 別山寺 宗音吳堂 南大津堂 石橋 本寺 高野	岡出寺 仙堂 及野子	三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月
---	------------------	--

身八回 Cambodia, China, Java.

(2)

<p>工</p> <p>小磯吉人の墓 弘善院山門 月山寺 常安院 南大深堂 石根進家の墓</p> <p>三月廿七日 三月廿八日 三月廿九日 三月三十日 三月三十一日</p>	<p>推</p> <p>法隆寺の遺跡 日本文学史 日本建築史 日本美術史 日本宗教史 日本民俗史 日本風土記</p> <p>三月廿七日 三月廿八日 三月廿九日 三月三十日 三月三十一日</p>	<p>公官</p> <p>明使節 明使節 明使節 明使節 明使節</p> <p>三月廿七日 三月廿八日 三月廿九日 三月三十日 三月三十一日</p>	<p>入</p> <p>石月大 石月大 石月大 石月大 石月大</p> <p>三月廿七日 三月廿八日 三月廿九日 三月三十日 三月三十一日</p>
---	--	--	---

第六回 Kamshunio

1. Kamshunioの地理と歴史
2. 建築の特色
3. 实例
4. Tibetの地理と歴史
5. 特色 (Detail)
6. 塔
7. monastery
8. Nepal 総論
9. 三種類
10. 实例

China, Java.

二月廿七日
 二月廿八日
 二月廿九日
 二月三十日
 二月三十一日

菅川義太郎
 永井金次郎
 志賀重昂
 片岡直輝
 山口辰雄
 藤井幸雄
 山本唯三郎
 藤代稔輔
 淺田信興
 松村金兵衛
 三輪田真佐子
 景山英子
 望月小太郎
 河西健次
 竹中公鑒
 矢橋賢吉
 内藤政舉
 芳野世經
 金光宗兵衛

菅田岩松
 飯野吉三郎
 比企龍忠
 大槻龍治
 小川作之助
 伊東祐忠
 安河内麻吉

Ceylon & Gandara. (第五回)

1. Ceylon 歴史及分類	2.
2. 第一期 Anuradhapura	5.
3. 第二期 Polonnaruwa	4.
4. 第三期 Modern	2.

Ghandara 13

1. Ghandhawa, 歴史と地理	2.
2. Ghandhara 特色	2.
3. Shapa	4.
4. Monastery	3.
5. Sculpture	3.
	14.

同
中
誌
記

世界建築様式(30頁)

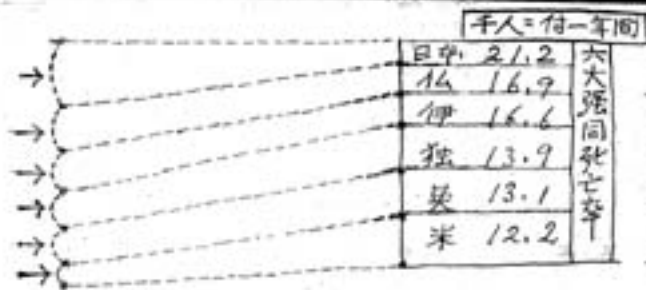
(1) 建築様式とは何	1
(2) 様式発生と飛遷の経緯	3
(3) 様式の種類	1
(4) 古代系 (埃及, ナリフ, ペルシア)	3
(5) 東洋系	
a 印度系 — 佛敎 (本部, シンチ教, 印度教)	3
b 支那系 — 支那, 安南, 朝鮮, 日本	3
c 回教系 — 本部, Mecca, 西亞, 印度	3
(6) 西洋系	
a 初期の様式	
greek	1
Roman	1
b 中間期	
Early Christian	1
Romanesque	1
Byzantine	1
c Gothic 式	2
d Renaissance	2
e 十九世紀	3
f Modern	3
g American	1

<p>2 23 22 25 23 22 28 27 30 31 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22</p> <p>東京賽 神戶著一巻 ―― 各著者一泊 大島編著 ク ク ク 大島健 形勢著一誌門 支那の建築 中戦一全武一遺天 藤野 市内 ク 形勢著 常浪一巻 ノランマ著巻 藤田一巻</p>	<p>13 14 15 16 17</p> <p>ナマヤ着1巻 ク ク 東京著 大正18年7月25日開演 8月25日閉演 は、あやまり也 伊東忠太</p> <p>東京郡勸学館...200. 大島滞在...75. 沖縄博覧会...100. 土産品...100. 雜費...25. ----- 500</p> <table border="1"> <tr> <th>土産</th> <th>土産品</th> <th>東大</th> <th>沖大</th> <th>沖大</th> <th>大島</th> <th>大島</th> </tr> <tr> <td>福間-30 藤-5 赤巻-10 吉布-10 その他-5 ----- 60</td> <td>高須一画 高名一画 高嶺一画 高辻一画 高橋一画 ----- 5</td> <td>5</td> <td>12</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>4</td> </tr> </table>	土産	土産品	東大	沖大	沖大	大島	大島	福間-30 藤-5 赤巻-10 吉布-10 その他-5 ----- 60	高須一画 高名一画 高嶺一画 高辻一画 高橋一画 ----- 5	5	12	18	18	4	<p>13 14 15 16 17</p> <p>大正18年7月25日開演 8月25日閉演 は、あやまり也 伊東忠太</p>	<p>日曜 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p> <p>三月十三日(月)同 東京郡勸学館</p>	<h3 style="text-align: center;">考古學講座 (古代建築)</h3> <table border="1"> <tr> <td>1. 序</td> <td>法隆寺中心の7 (法隆寺建築誌)</td> <td>牙十三</td> <td>佛像</td> </tr> <tr> <td>2. 第一</td> <td>原始時代の建築</td> <td>牙十四</td> <td>天蓋</td> </tr> <tr> <td>3. 第二</td> <td>飛鳥時代の建築 総論</td> <td>牙十五</td> <td>壁画</td> </tr> <tr> <td>4. 第三</td> <td>法隆寺総論</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 第四</td> <td>百濟と堂伽藍の脚説(印夏、友邦、新羅等の例)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 第五</td> <td>再建と非再建の論</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 第六</td> <td>柱の偶数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第七</td> <td>柱のエンゲルス</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 第八</td> <td>柱拱(雲形)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. 第九</td> <td>井筒組</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11. 第十</td> <td>Honeycomb文, 玉及2列の文様</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12. 第十一</td> <td>塔の心柱</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13. 第十二</td> <td>法隆寺式部の補遺の部</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <h2 style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; font-size: 2em; margin-top: 20px;">法隆寺論</h2>	1. 序	法隆寺中心の7 (法隆寺建築誌)	牙十三	佛像	2. 第一	原始時代の建築	牙十四	天蓋	3. 第二	飛鳥時代の建築 総論	牙十五	壁画	4. 第三	法隆寺総論			5. 第四	百濟と堂伽藍の脚説(印夏、友邦、新羅等の例)			6. 第五	再建と非再建の論			7. 第六	柱の偶数			8. 第七	柱のエンゲルス			9. 第八	柱拱(雲形)			10. 第九	井筒組			11. 第十	Honeycomb文, 玉及2列の文様			12. 第十一	塔の心柱			13. 第十二	法隆寺式部の補遺の部		
土産	土産品	東大	沖大	沖大	大島	大島																																																																
福間-30 藤-5 赤巻-10 吉布-10 その他-5 ----- 60	高須一画 高名一画 高嶺一画 高辻一画 高橋一画 ----- 5	5	12	18	18	4																																																																
1. 序	法隆寺中心の7 (法隆寺建築誌)	牙十三	佛像																																																																			
2. 第一	原始時代の建築	牙十四	天蓋																																																																			
3. 第二	飛鳥時代の建築 総論	牙十五	壁画																																																																			
4. 第三	法隆寺総論																																																																					
5. 第四	百濟と堂伽藍の脚説(印夏、友邦、新羅等の例)																																																																					
6. 第五	再建と非再建の論																																																																					
7. 第六	柱の偶数																																																																					
8. 第七	柱のエンゲルス																																																																					
9. 第八	柱拱(雲形)																																																																					
10. 第九	井筒組																																																																					
11. 第十	Honeycomb文, 玉及2列の文様																																																																					
12. 第十一	塔の心柱																																																																					
13. 第十二	法隆寺式部の補遺の部																																																																					

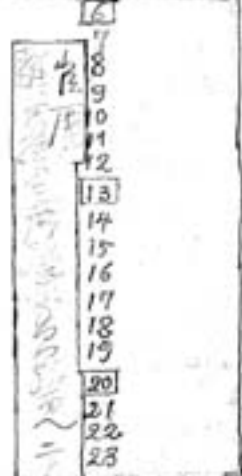
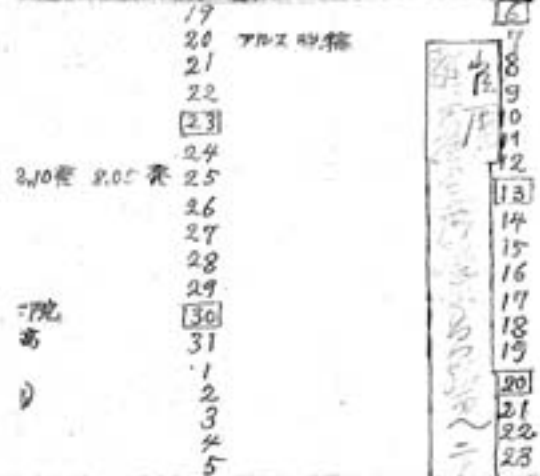


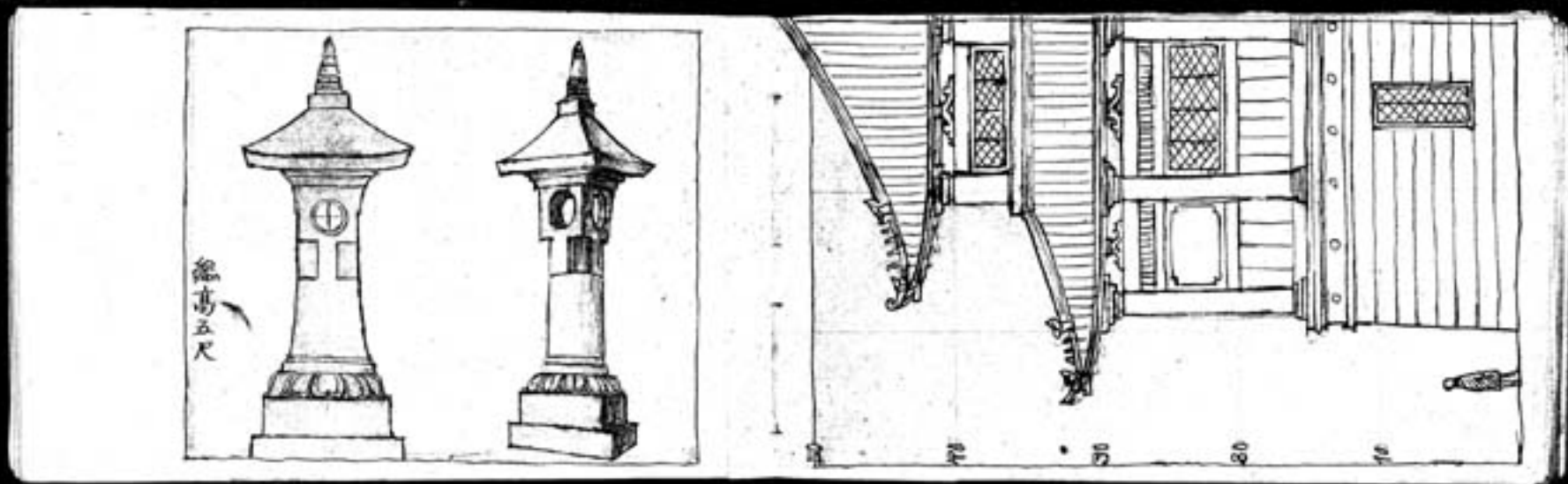
昭和二年一月十二月

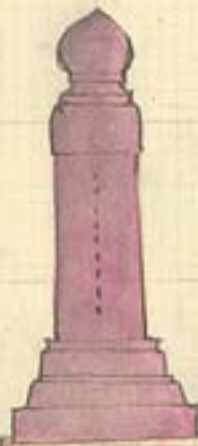
①	17		⑬	7
②	20	アハ又 印稿	⑭	8
③	21		⑮	9
4	22	後 2.10 宛	⑯	10
⑤	23		⑰	11
6	24		⑱	12
7	25	前 8.53 宛 2.10 宛 2.05 宛	⑳	13
8	26		㉑	14
⑨	27		㉒	15
10	28		㉓	16
11	29		㉔	17
12	30	(洞真) 学士院	㉕	18
13	31	露山房 脱稿	㉖	19
14	1		㉗	20
15	2	(早稻田同僚)	㉘	21
⑬	3		㉙	22
17	4		㉚	23
18	5			



昭和二年一月十二月

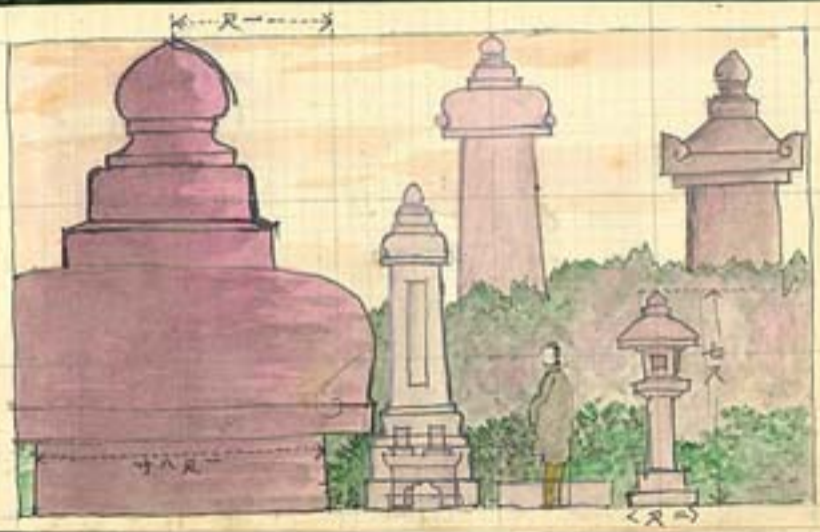




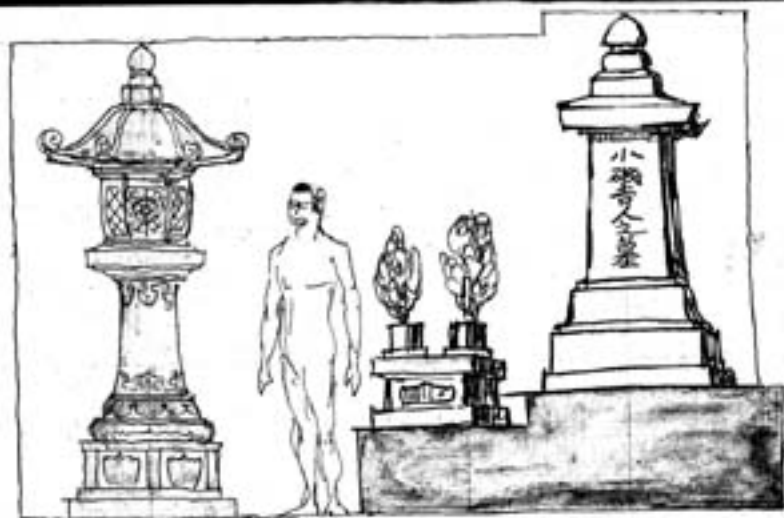


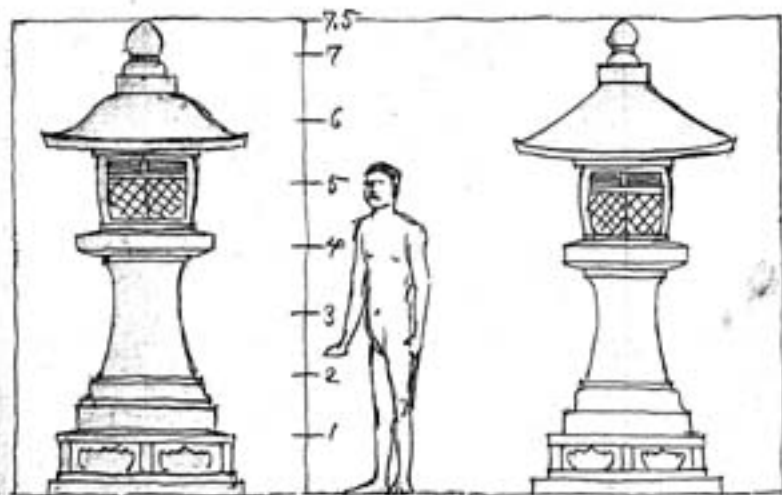
北京
大甜水井胡同
東方文化事業總務員會
事務所
大内

北京
南園苑南池子瀨河公館



材料構造施工 中村
 意匠 辰野
 歴史 三ツル小島
 裝飾 シデル
 測量 原
 縮正 バルトン
 衛生 野呂
 力学 大野渡辺、佐々木
 画 白石
 地質 ミルン
 日本 木子曾故人、岸村先生、
 隠所 無量 二十四人中四人
 如來三十五年、当年の禪師、
 日月失の如し、
 今日ノ隆盛ヲ見ルハ欣幸、諸君ノ努力
 ヲ望ム。
 大年の壬子、一弘の通應、苦情、
 出

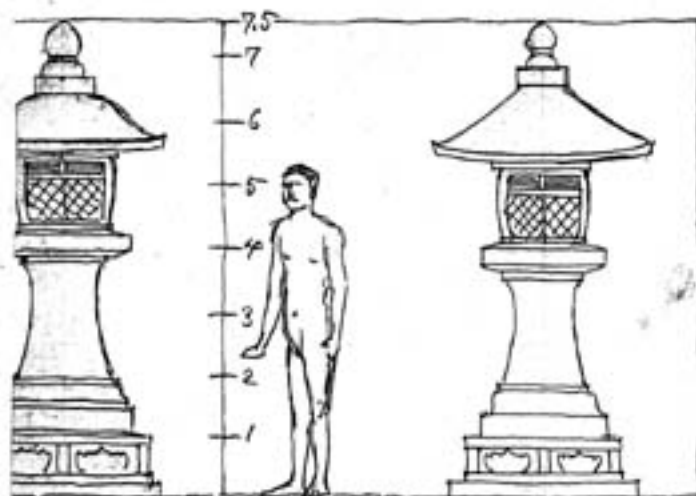




- ①美ヲ絶對ニ真ノ上ニアリトモ考
- ②真ナルハ美自ラ從フト考フル説
- ③美トハ真自ラ從フト考フル説
- ④兩者判断ハ大ケレト後章ニユツル
- ⑤世人ハコレヲ解セズ只次ノ如ク考フ
- ⑥料理ハ理論トシテ藝術ヲ實際トスルハ
- ⑦世事ハ理論ノ通クハ行カヌ
- ⑧医者ノ云フ通ニシテモ病ハヤホラヌ
- ⑨正直ニスレバ幸福カ来ルト云モ實際ハ然ラズ
- ⑩勘定合テ錢足ラズ
- ⑪コレヲ文章ノ將來ノ競争ノ失敗
- ⑫コレヲシテ等ハ實際不備ナル点ニ由リ、
- ⑬理論ガ當ニナラヌ証據ハナラヌ
- ⑭理論ト實際ハ必ス合フニ十二三四ハ
- ⑮如シ
- ⑯只コレニ理論ノ通りニ出來ヌ場ハ台セマ場カ

○科学と藝術の衝突

- ① 真ト美ノ衝突
- ② 真カ絕對デ美ノ上ニアリトスル考
- ③ 美カ絕對デ真ノ上ニアリトスル考
- ④ 真ナクハ美自ラ從フト考フル説
- ⑤ 美ナクハ真自ラ從フト考フル説
- ⑥ 兩者判断ハ六ケレイ後章ニユツル
- ⑦ 世人ハコトヲ解セズ只次ノ如ク考フ
- ⑧ 科学ハ理論トシテ藝術ヲ實際トスル科
- ⑨ 世事ハ理論ノ通りハ行カヌ
- ⑩ 医者ノ云フ通ニシテモ病ハ治ラヌ
- ⑪ 正直ニスルハ幸福カ来ルト云モ實際ハ然ラヌ
- ⑫ 勘定合テ錢足ラヌ
- ⑬ 國ノシキ文豪ノ將來ノ戦争ノ失敗
- ⑭ 理論ガ当ニナラヌ証據ニハナラヌ
- ⑮ 理論ト實際ハ必ス合フニ二十四ハ二五ノ如シ
- ⑯ 十六只ノニ理論ノ通りノ出来ヌ場合セテ堪ルカ



科学と藝術の邂逅
学理と實際は衝突せず



大工が、

鋸鉤を使ふとき、

石井が石を叩くとき、

飛行機の給油は、

自動車電車、

運動するとき、

これを廣の

れべ、事一業

を運動する

とき、



○科学と藝術の衝突

俗に学理と實際と違ふと云ふ

学者は空論のみと云ふ

實際家は学理を無視する不都合と云ふ

学理の實際と衝突する如くに見へる

●構造と外觀(建築)

計算から出した形と外觀の要求する形
通風採光からの、プランを便利からのプラン

寫實と氣韻

寫生で、絵が死ぬ、氣韻を主とするのは

寫生にあらず、

(食) 學理他の食物といふ不足が、マイナース
要求

(衣) 保護より考へて居られぬ体裁を考
へる。

以上十五分

江戸の建築 (武藏の會)
 湯島聖堂の復旧に就て (期文全)
 法隆寺五重塔は刻する彫像見 (史博會)
 日本建築に影響せる仏教 (東才仏教)
 科学と藝術 (協働會)
 神田明神社再築に就て (神田神明)
 法字問と藝術 (米沢夏期大講堂)

Peritonitis=腹膜炎
 Tuberculosis=結核性
 Cancer=癌
 Intestines=腸

下加次中
 河原野五
 陽兵衛方
 欄橋文作

自四月一日至六月廿日

穂積陳重
 渡辺霞亭
 波川玄耳
 大島義昌
 盧高朗
 池辺棟三郎
 山中信儀
 李王殿下
 川村景明
 エレンケイ
 鈴置倉次郎
 尾上栄三郎
 斎藤守三郎
 吉田朋吉
 大森喜一
 長谷川輝雄
 藤波吉忠
 落合謙太郎
 日比野雷風
 平井晴一郎
 江口元太郎

長瀬鳳輔
 藤井枝一
 内貴基三郎
 外松孫太郎
 田辺淳吉
 斎藤七五郎
 松井誠
 北川ウレンチノ
 志賀ウツキヤム三郎
 長井金風
 鳥山あさ子
 八ノタタ
 長井金風
 目賀田種太郎
 川野栄
 清野長太郎
 早速整鬮
 尾上松之助
 米田穰
 徳見常雄

大岩弘平
 小倉信近
 淺田知宝
 日置益
 福沢捨二郎
 伊左久
 森沢保作藏
 大野七三郎
 神戶幸一
 鶴丈一郎
 高平小五郎
 武井守正
 中島半次郎
 名田トモ子
 武井守正
 福柳
 中島半次郎
 笠原文太郎
 佐藤達次郎

東京醫學專門學校



40

<p> 澤野辰 <small>八月三十日午後六時 二十六分三十分</small> </p>	<p> 白根大老 <small>二四、八 三三</small> </p>
<p> 震史 <small>羽田沖 三八〇ミリ</small> </p>	<p> 加藤度 <small>一六秒</small> </p>

法隆寺

大正十二年より
大正十五年まで



郵便はがき

東京
都文京区西片所

一〇番地
二〇八

伊藤
藤忠
太
殿

法隆寺監査官伊藤正幸宛

群法口先般 栄 十月七日 八月 西日

法隆寺五重塔心柱下 空洞を

お見せすす旨 御案内 肉を 差上り

と云ふまじしたし 二下 御案内

十月十二日 七時 十六時迄 御案内

平にはいり 上から 御案内

改ふこと 変更 したかり 御案内

甲上り 御案内 御案内

御案内 御案内 御案内

御案内 御案内 御案内

九月三十日 法隆寺 御案内 御案内

推古天皇二十八年
 高麗の僧曇首が
 日本に紙を傳へし
 といふ事
 日本書紀に
 推古天皇二十八年
 高麗の僧曇首が
 日本に紙を傳へし
 といふ事

初はつの發明はつめいである。
 日本にっぽんの紙かみの事ことは専門家せんもんかが既に熟知しんちゆせられた
 事ことは太古たいこの歴史れきしは不明ふめいである。但たゞし何時いつか三韓さんかん
 より日本にっぽんに紙かみを輸入こまひさせ、此下こゝツツて聖徳太子せいとくたいしの時とき
 既に措さを主しゆとし、精巧せいきうの紙かみを作り出だし、連綿れんめんと
 して近代きんたいに到いたつたのである。然しかるに明治初年めいししゆねんふ
 り西洋紙せいやうかみの輸入こまひとあり、和紙わかみは漸次しんじに劣退りやくたいし、洋
 紙せいは優勢りゆうせいに進み来きつたのである。然しかし現下げんげ和紙わかみ
 洋紙せいと混交こんかうし不遜ふそんの狀態じたいに在あるのには遺憾いげんで
 ある。

紙

保險金庫平圖ノ傾斜射收放表考案 (1927年)

項目	傾斜射	放	收	表	考案
1	2000	2000	2000	2000	2000
2	2000	2000	2000	2000	2000
3	2000	2000	2000	2000	2000
4	2000	2000	2000	2000	2000
5	2000	2000	2000	2000	2000
6	2000	2000	2000	2000	2000
7	2000	2000	2000	2000	2000
8	2000	2000	2000	2000	2000
9	2000	2000	2000	2000	2000
10	2000	2000	2000	2000	2000
11	2000	2000	2000	2000	2000
12	2000	2000	2000	2000	2000
13	2000	2000	2000	2000	2000
14	2000	2000	2000	2000	2000
15	2000	2000	2000	2000	2000
16	2000	2000	2000	2000	2000
17	2000	2000	2000	2000	2000
18	2000	2000	2000	2000	2000
19	2000	2000	2000	2000	2000
20	2000	2000	2000	2000	2000
21	2000	2000	2000	2000	2000
22	2000	2000	2000	2000	2000
23	2000	2000	2000	2000	2000
24	2000	2000	2000	2000	2000
25	2000	2000	2000	2000	2000
26	2000	2000	2000	2000	2000
27	2000	2000	2000	2000	2000
28	2000	2000	2000	2000	2000
29	2000	2000	2000	2000	2000
30	2000	2000	2000	2000	2000
31	2000	2000	2000	2000	2000
32	2000	2000	2000	2000	2000
33	2000	2000	2000	2000	2000
34	2000	2000	2000	2000	2000
35	2000	2000	2000	2000	2000
36	2000	2000	2000	2000	2000
37	2000	2000	2000	2000	2000
38	2000	2000	2000	2000	2000
39	2000	2000	2000	2000	2000
40	2000	2000	2000	2000	2000
41	2000	2000	2000	2000	2000
42	2000	2000	2000	2000	2000
43	2000	2000	2000	2000	2000
44	2000	2000	2000	2000	2000
45	2000	2000	2000	2000	2000
46	2000	2000	2000	2000	2000
47	2000	2000	2000	2000	2000
48	2000	2000	2000	2000	2000
49	2000	2000	2000	2000	2000
50	2000	2000	2000	2000	2000
51	2000	2000	2000	2000	2000
52	2000	2000	2000	2000	2000
53	2000	2000	2000	2000	2000
54	2000	2000	2000	2000	2000
55	2000	2000	2000	2000	2000
56	2000	2000	2000	2000	2000
57	2000	2000	2000	2000	2000
58	2000	2000	2000	2000	2000
59	2000	2000	2000	2000	2000
60	2000	2000	2000	2000	2000
61	2000	2000	2000	2000	2000
62	2000	2000	2000	2000	2000
63	2000	2000	2000	2000	2000
64	2000	2000	2000	2000	2000
65	2000	2000	2000	2000	2000
66	2000	2000	2000	2000	2000
67	2000	2000	2000	2000	2000
68	2000	2000	2000	2000	2000
69	2000	2000	2000	2000	2000
70	2000	2000	2000	2000	2000
71	2000	2000	2000	2000	2000
72	2000	2000	2000	2000	2000
73	2000	2000	2000	2000	2000
74	2000	2000	2000	2000	2000
75	2000	2000	2000	2000	2000
76	2000	2000	2000	2000	2000
77	2000	2000	2000	2000	2000
78	2000	2000	2000	2000	2000
79	2000	2000	2000	2000	2000
80	2000	2000	2000	2000	2000
81	2000	2000	2000	2000	2000
82	2000	2000	2000	2000	2000
83	2000	2000	2000	2000	2000
84	2000	2000	2000	2000	2000
85	2000	2000	2000	2000	2000
86	2000	2000	2000	2000	2000
87	2000	2000	2000	2000	2000
88	2000	2000	2000	2000	2000
89	2000	2000	2000	2000	2000
90	2000	2000	2000	2000	2000
91	2000	2000	2000	2000	2000
92	2000	2000	2000	2000	2000
93	2000	2000	2000	2000	2000
94	2000	2000	2000	2000	2000
95	2000	2000	2000	2000	2000
96	2000	2000	2000	2000	2000
97	2000	2000	2000	2000	2000
98	2000	2000	2000	2000	2000
99	2000	2000	2000	2000	2000
100	2000	2000	2000	2000	2000

本郷区

駒込西片町

市内特別

第三種所得金 香注意書

伊東忠太 殿

東京市本郷区員砂町(春日町修習場)

水道橋税務署

監査小石川 王子測く係

(家庭扶養費控除の申請)

氏名	生年月日	住居の所在地	扶養親族の氏名	扶養の程度
太郎	昭和元年一月一日	東京都本郷区	父 次郎	扶養
次郎	昭和二年八月三日	東京都本郷区	母 次郎	扶養
計二人	扶養額 二百円			

(生命保険料控除の申請)

氏名	生年月日	住居の所在地	生命保険の金額	控除の金額
太郎	昭和元年一月一日	東京都本郷区	10000円	2000円
次郎	昭和二年八月三日	東京都本郷区	5000円	1000円
計二人				

(資本利子金額の申告)

氏名	生年月日	住居の所在地	資本利子の金額	申告の金額
太郎	昭和元年一月一日	東京都本郷区	50000円	10000円
次郎	昭和二年八月三日	東京都本郷区	20000円	4000円
計二人				

第三種所得金額と資本利子金額の申告に就て

日本の課税十六種(十五年度換算)のうち、その半額以上は税金によつて支拂せられて居ります。税金のうちでも、所得税は種類二個に上り、最も重要な地位を占めて居り、殊に個人の所得額(第三種所得)は、あらゆる資産、營業、職業、職業、職業、職業等から生ずるものを一括計算するもので、第三種所得税は廣く國民全般に關係の深い税であります。

この國民税とも云ふべき第三種所得税は、一家族の所得が、一ヶ年千二百圓以上の人が申告し納税することになつて居ります。

所得と云ふのは、本人や家族の生活費まで差引いた所謂「差し残り」の純収入と云ふ意味ではありませんが、その計算方には大體次の記載例に準じた通りであります。

資本利子税と云ふのは、右の所得のうち、貸金(借し貸付貸金)には營業収益税がかゝるから資本利子税はかゝらぬ)及預金の利子にかゝるものであります。

◆一家族の總所得が一ヶ年千二百圓以上となる方は三月十五日迄に税務署へ所得の申告書を出し下さい。

◆記載方は左の例に倣ひ納税額には収入、経費の内譯等を御書き下さい。
左記載例に倣ひ記載なき所得に付ては田貸付、貸家、共益販賣等の例に倣ひ前年中の總収入金額及収入を得るに必要な経費、所得金額等を御書き下さい。

所得の種類	金額	経費	所得	備考
所得の総額	1000	100	900	所得の総額
資本利子	500	0	500	資本利子
預金	500	0	500	預金
貸付	100	0	100	貸付
田貸	100	0	100	田貸
共益	100	0	100	共益
販賣	100	0	100	販賣
職業	100	0	100	職業
營業	100	0	100	營業
雑種	100	0	100	雑種
合計	1000	100	900	合計
所得の総額	1000	100	900	所得の総額
資本利子	500	0	500	資本利子
預金	500	0	500	預金
貸付	100	0	100	貸付
田貸	100	0	100	田貸
共益	100	0	100	共益
販賣	100	0	100	販賣
職業	100	0	100	職業
營業	100	0	100	營業
雑種	100	0	100	雑種
合計	1000	100	900	合計